

国際化推進センター・教学 支援部グローバル推進課

2023 年度 成果報告書



目次

I. グローバルパートナーシップ形成

海外訪問	3
海外からのご来訪	4
OB ネットワーク	9
国際交流協定の締結	10
その他の活動	10

II. 学生交流

海外への学生派遣

1. 交換留学	12
2. 海外研修プログラム	12
3. 海外留学のフォローアップ	15

海外からの学生受入

1. 交換留学	18
2. 日本語・日本文化短期プログラム	18

A ³ I：アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム（通称：A ³ I）	19
---	----

III. 日本語教育・留学生サポート事業

日本語教育

1. 日本語 Intensive コース	27
2. 日本語補講	30
3. 日本語・国際共修科目	34

留学生サポート

1. 留学生支援・相談、文化交流	39
2. 山梨留学生就職促進プログラム（通称：IRCS）	44
3. その他の活動	51

IV. 国際化教育

G-フィロス

1. G-フィロス（グローバル共創学習室）と英語学習・留学サポート	53
-----------------------------------	----

V. 地域貢献

留学生の地域との交流	58
小・中・高等学校への留学生派遣	59

VI. 国際交流関連データ	60
---------------	----

国際化推進センター長挨拶

西崎 博光
国際化推進センター長

本報告書では、第4期中期目標・中期計画に掲げる本学のグローバル化に関する目標達成に向けて、国際化推進センターと国際部国際企画課のスタッフが丸ごとになって取り組んできた活動をまとめています。2023年度は、第4期中期目標・中期計画の2年目として、国際的な教育プログラムの充実、異文化交流の促進、留学生の受入・派遣の拡大などを目標に活動を展開してまいりました。新型コロナウイルスの影響からほぼ完全に回復し、国際交流が本格的に再開された1年となり、対面での国際会議や交流イベントが活発に行われ、留学生の往来も順調に増加しています。これらの2023年度の活動内容を、Ⅰ. グローバルパートナーシップ形成、Ⅱ. 学生交流、Ⅲ. 日本語教育・留学生サポート事業、Ⅳ. 国際化教育、Ⅴ. 地域貢献、Ⅵ. 国際交流関連データの6つのパートに分けて紹介しています。

グローバルパートナーシップ形成では、中国・揚州大学、西南交通大学等からの代表団の訪問、米国・ノースアイオワ大学からの Carolina Coronado-Park 氏の来学により、デュアル・ディグリープログラムに向けての協議など、より深い協力関係の構築に向けた具体的な協議を行いました。また、文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択された「アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム (A3I)」を通じて、杭州電子科技大学 (中国)、国立釜慶大学校 (韓国)、ペルリス大学 (マレーシア) との連携が一層強化されました。特に、2023年11月には、本学の中村学長を始めとする本学訪問団が杭州電子科技大学を訪問し、本学大学院工学専攻電気電子工学コースとのデュアル・ディグリープログラムの開校式に参加するなど、交流を深化させました。また、新規に6大学との交流協定を締結し、2023年度末時点で81大学との間で交流協定を締結するに至っております。

学生交流においては、A3I 事業を通じて、Society 5.0 や DX をリードする AI 人材の育成に向けた実践的な交流プログラムを展開しており、中国・韓国・マレーシアの学生に対する短期日本語・日本文化研修を実施しました。また、蘇州大学、マレーシアペルリス大学、リュブリャナ大学 (スロベニア) の学生らの短期訪問の受け入れを実施しました。当センターの宮本教授による、リュブリャナ大学との国際交流授業もオンラインで実施され、双方の大学の交友を深めました。

日本語教育・留学生サポート事業では、留学生のための日本語教育プログラムを充実させ、留学生の日本での学びをサポートしました。また、留学生の日本での就職を促進するプログラムも展開し、彼らのキャリア形成を支援しています。

国際化教育においては、本学の特色であるグローバル共創学習室 (G-フィロス) による English カフェ、出身国ごとの留学生による外国語カフェ (マレーシア、カンボジア、中国等) などの実施によって、本学の学生が英語を主体的に学ぶ機会の提供や、多様な文化理解の促進も進めてきました。これにより利用した学生は、英語スキルの改善と、グローバルな視点の涵養・異文化理解を深める機会を得たものと思います。

地域貢献においては、山梨県立甲府第一高等学校への留学生派遣プログラムを実施し、高校生との直接的な交流を通じて相互理解を深めました。

これらの取り組みの成果として、本学の外国人留学生数は2023年11月1日現在で30ヶ国265名に達しました。これは第3期中期目標・中期計画期間の末である2021年度の239人から約10.9%の増加となります。国際共同研究に基づく国際共著論文も増加するなど、本学の国際的なプレゼンスは着実に向上しています。これもひとえに、中村和彦新学長のリーダーシップのもと、国際化推進センター及び教学支援部グローバル推進課のスタッフ全員の献身的な努力、そして各学域や附属教育・研究施設の皆様からの多大なるご支援とご協力の賜物です。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

I. グローバルパートナーシップ形成

本学の特色あるさまざまな研究分野を通して、新たな海外大学との交流が広がりつつあります。国際化推進センター・教学支援部グローバル推進課では、新たな協定締結や海外からの訪問者受け入れを通して、山梨大学の更なるグローバル化に向けて、グローバルパートナーシップの形成を推進しています。

海外訪問

学長・教職員の協定校等訪問

海外の交流協定校や、新たな協定締結の可能性があるその他の教育機関等を、学長他、関係する教職員が訪問し、グローバルパートナーシップの強化・拡大に努めています。2023 年度の海外訪問について、以下に報告します。

(1) 中村和彦学長他本学関係者が中国・杭州電子科技大学を表敬訪問

令和 5 年 10 月 31 日（火）～11 月 3 日（金）、中村和彦学長他本学関係者が中国・杭州電子科技大学を表敬訪問し、11 月 1 日（水）に举行された同大修士課程デュアルディグリープログラムの開講式に出席しました。

本学では、同大と平成 20 年に大学間交流協定を締結し、教員と学生の相互派遣などの交流を続けています。

本プログラムは、学生が双方の大学の教員から指導を受けながら両大学で学習や研究を行い、修士学位を取得することができるもので、平成 30 年に連携された本学修士課程工学専攻コンピュータ理工学コースと同大計算機学院に続き、電気電子工学コースでも同大電子学院との連携により本プログラムが設置されました。

開講式では、朱泽飞同大学長と中村学長がそれぞれ式辞を述べた後、記念植樹及び記念碑の除幕式が行われました。

その後、電子学院の遠隔実験室や計算機学院の BMI (Brain Machine Interface) 研究室を視察し、先端的な研究の説明を受けるとともに関係者の方々と意見交換を行いました。



記念植樹及び記念碑除幕式



デュアルディグリープログラムの開講式



式辞を述べる中村学長

海外からのご来訪

海外の大学からのご来訪

海外の交流協定校や、協定締結を視野に交流している大学からの、山梨大学への訪問について報告します。

交流協定校からは、学生交流のプログラム担当教職員が本学を訪れ、さらなるプロモーションに向けた打ち合わせなどが行われました。また、協定校以外にも本学の特色ある研究に興味を持つ海外の教育機関は多く、今後の協定締結に向けての訪問等がありました。

(1) 中国・杭州電子科技大学一行が来学

令和5年8月23日（水）～26日（土）、Lyu Jinhai 杭州電子科技大学副学長他4名が来学しました。

今回の訪問は、本学工学部と杭州電子科技大学との修士課程ダブルディグリープログラム（以下、DDプログラム）

（※1）の意見交換・関係強化を目的として企画されたものです。

一行は、本学で開催された A3I ショートプログラム（※2）の活動及び、本学工学部研究室、水素・燃料電池ナノ材料研究センターの視察等を行いました。

25日（金）は、甲府キャンパスにおいて DD プログラム第4期生の閉講式を挙行し、中山栄浩工学域長と Lyu Jinhai 杭州電子科技大学副学長、茅曉陽 DD プログラム委員長がそれぞれ式辞を述べました。その後、中山工学域長が2名の学生に優秀発表賞を贈呈し、小澤賢司コンピュータ理工学科教授が18名の修了生一人ひとりに記念品を手渡しました。

※1 修士課程ダブルディグリープログラム：双方の教育の国際化と学生指導を通じた共同研究をより一層促進するため、平成30年9月より本学工学専攻コンピュータ理工学コースと杭州電子科技大学計算機学院との連携により設置されたもの



A3I ショートプログラム視察の様子



DD プログラム閉講式の様子



集合写真

(2) スロベニア・リュブリャナ大学の学生らが本学のロボット・AI 研究を視察

令和 5 年 9 月 5 日(火)、スロベニア・リュブリャナ大学のマルコ・ミュニ教授、ミラン・スケンデル元スロベニア駐日本大使ほか、リュブリャナ大学の大学院生 16 名総勢 22 名が来学しました。

今回の訪問は、平成 29 年 9 月に大学間交流協定と、平成 30 年 6 月に学生交流協定を締結している同大とロボット・AI 研究に関する交流促進を目的としたものです。

当日は、中村和彦学長による歓迎挨拶の後、大村智記念学術館の見学と工学部メカトロニクス工学科・コンピュータ理工学科の教員・学生の案内で、「展示案内音声対話ロボット：さとっちゃん」「歩行アシストロボット」「SCARA（水平多関節ロボット）試作機」「4 本 SCARA（水平多関節ロボット）」「農業用スマートグラス」について装着体験やデモンストレーションなどを行いました。

参加した学生達は大変興味深そうに本学のロボット研究を視察し、多くの質問が上がるなど有意義な時間となりました。



大村記念館での記念撮影



さとっちゃん（展示案内音声対話ロボット）
による大村記念館の案内

(3) 中国・西南交通大学一行が来学

令和 5 年 9 月 13 日(水)～14 日(木)、中国・西南交通大学の刘晓波院長、蹇明副院長、唐优华副院長、杨鶴副教授の 4 名が来学しました。

同大とは平成 27 年 9 月に大学間交流協定を締結しており、学生・教員の相互派遣や共同研究に加え、本学大学院修士課程工学専攻土木環境工学コースとの間でダブルディグリープログラムを実施しています。

一行は、茅曉陽本学理事（グローバル推進担当）、中山栄浩工学域長、西崎博光国際化推進センター長、森一博土木環境工学科長、武藤慎一土木環境工学科教授と更なる関係強化と交流の継続について意見交換を行いました。その後、中山工学域長、森学科長、武藤教授と同プログラムについて協議を行い、両大学の一層の交流推進について確認をしました。

また、県内のワイナリーや歴史文化施設を視察し、本県への理解を深め、文化交流をする良い機会となりました。



ダブルディグリー推進会議の様子



ワイナリー視察の様子



記念撮影

(4) 中国・揚州大学一行が来学

令和 5 年 10 月 2 日(月)、中国・揚州大学の俞洪亮副学長、王金銓人文社会科学研究科長、何山华外国語学院院長、孙杨外国語学院副教授の 4 名が来学しました。

同大とは令和 2 年 7 月に大学間交流協定を締結し、相互派遣の学生交流、教員・研究者の交流、国際ワークショップ等の共同開催、共同研究と教育プログラムの推進を行ってきました。

一行は、甲府キャンパスにおいて、茅暁陽本学理事（グローバル推進担当）、木内博之本学理事（医学部附属病院長）、西崎博光国際化推進センター長、姚建 医学域准教授を表敬訪問し、両大学の一層の交流推進と関係強化について意見交換を行いました。

また、医学部キャンパスを訪問し、医学部附属病院や学生実習の様子等を見学しました。見学後には、谷口珠実医学域教授、姚 准教授と高齢者看護・介護に関する活発な意見交換を行い、有意義な時間となりました。



表敬訪問と意見交換の様子



医学部屋上ヘリポート見学の様子

(5) 米国・ノーザン アイオワ大学の Carolina Coronado-Park 氏が来学

令和 5 年 10 月 5 日(木)～6 日(金)、米国・ノーザン アイオワ大学（以下、UNI）の Carolina Coronado-Park 氏が、本学と UNI との交換留学やデュアル・ディグリープログラム実現の可能性について意見交換を行うため来学しました。

本学国際化推進センターと UNI は、平成 29 年 9 月にプログラム協定を締結して以降、本学学生向けに語学・文化研修や UNI を拠点とする海外研修プログラムの実施、オンライン合同授業を実施しています。さらに、令和 3 年には大学間交流協定を締結し、両大学の交流を促進してきました。

Carolina 氏は、茅暁陽本学理事（グローバル推進担当）、西崎博光国際化推進センター長を表敬訪問した後、教育学域、工学域、生命環境学域の教授らと意見交換を行いました。



工学域と意見交換の様子



生命環境学域長との意見交換の様子

（６）中国・内蒙古医科大学一行が来学

令和 5 年 10 月 18 日(水)～19 日(木)、中国・内蒙古医科大学の魯海文副学長、任建军副院長、祝勇福院長の 3 名が来学しました。

本学は、平成 21 年に同大の前身である内蒙古医学院と大学間交流協定を締結し、同院が現在の名称へ変更したことに伴い、平成 28 年 9 月 16 日に大学間交流協定を再締結し、これまで医学部を中心に教員や学生同士の交流を行ってきました。

今回の訪問は、同大の学長交代や事務組織変更等による同協定の再締結を目的に行われたものです。

一行は、医学部キャンパスにおいて、木内博之本学理事（医学部附属病院長）、医学域 姚建准教授、石原昭事務部長を表敬訪問し、学生交流等について同大の留学生も同席し、意見交換を行いました。その後、医学部附属病院や留学生が所属する先端応用医学講座研究室等を見学しました。

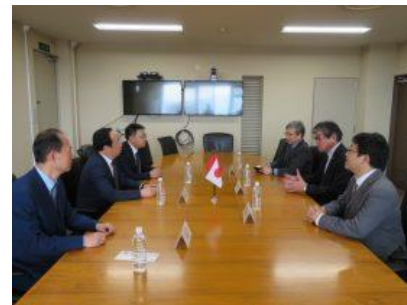
また、甲府キャンパスにおいて、中村和彦学長、西崎博光国際化推進センター長を表敬訪問した後、調印式を举行了。式では、これまでの実績を振り返るとともに両大学の交流をより一層推進することを確認しました。



木内理事表敬訪問での記念撮影



中村学長、魯内蒙古医科大学副学長



中村学長表敬訪問の様子

（７）ドイツ・ドレスデン工科大学東アジア研究センターBirgit Haese センター長が来学

令和 5 年 11 月 20 日(月)～21 日(火)、ドイツ・ドレスデン工科大学東アジア研究センターの Birgit Haese センター長が来学しました。

本学は、平成 17 年 3 月にドレスデン工科大学と大学間協定を締結し、これまで交換留学を中心に活発な教員や学生同士の交流を行ってきました。

今回の訪問は、受入交換留学生の日本語教育や学習状況等についての意見交換を目的に行われたものです。

一行は、甲府キャンパスにおいて、国際化推進センターの西崎博光センター長、伊藤孝恵副センター長、江崎哲也教授、宮本和子教授、布村猛助教を表敬訪問し、同センターの日本語教育の内容や特色、交換留学生の学習状況、キャンパスライフ等について活発な意見交換を行いました。

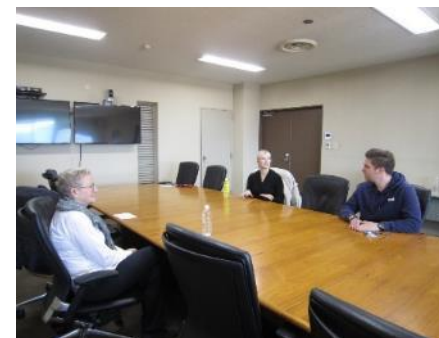
その後、布村助教の授業やグローバル共創学習室(G-フィロス)における留学生の活動を視察しました。また、両大学に留学した学生同士の懇談を行うなど、交換留学の継続と充実に向けた有意義な意見交換の場となりました。



Birgit Haese センター長と国際化推進センター教員



国際化推進センター教員との意見交換



ドイツからの留学生との懇談

（８）インドネシア・アル ヒクマ スラバヤ校の高校生が来学

令和 5 年 12 月 4 日（月）、インドネシア共和国のアル ヒクマ スラバヤ高校の生徒・教員など、56 名が国外研修プログラムの一環として来学しました。

当日は、郷 健太郎工学域教授が歓迎の挨拶を述べた後、西崎博光国際化推進センター長が、本学の研究や教育などについて紹介しました。

その後、ブアヤイ プラウィット工学域特任助教の説明のもと、本学が開発したスマートグラスを実際に着用し、ブドウ摘粒作業や収穫適期判定のシミュレーションを体験しました。



歓迎の挨拶を述べる郷教授



スマートグラスを体験する高校生



当日の様子

（９）中国・西安医学院と大学間交流協定を締結

令和 6 年 1 月 25 日（木）、中国・西安医学院のリュウ リン理事長他関係者 5 名が来学し、同大と本学との大学間交流協定の調印式を挙行了しました。

同大とは、本学で博士学位を取得した留学生 4 名が同大第一附属病院に勤務するなど、これまでも交流を行っており、今回正式に交流協定を締結したことで、大学間の交流をより一層発展させ、国際的医療人材の育成のみならず、共同研究の実施等、学術面においてもさらなる発展が期待されます。

リュウ理事長は、中村和彦学長をはじめ本学役員らと今後の学生・研究者交流や共同研究等の推進について意見交換を行いました。

また、調印式後には医学部キャンパスを訪問し、附属病院の外来棟及び救急外来棟、ヘリポート、薬剤部を視察の後、小泉修一医学域長及び医学域関係者との意見交換を実施しました。



中村学長（左）とリュウ理事長（右）



意見交換の様子

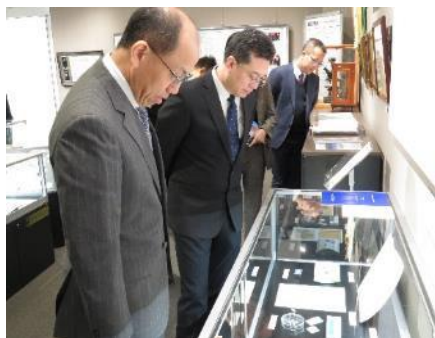
(10) 中国・五邑大学一行が来学

令和6年3月25日(月)、中国・五邑大学の楽天罡理事長、陳文華科学技術部長、王純陽国際部長、劉長宇環境・化学工学部長、魏文外国語学部教員の5名が国際交流について意見交換等を行うため来学しました。

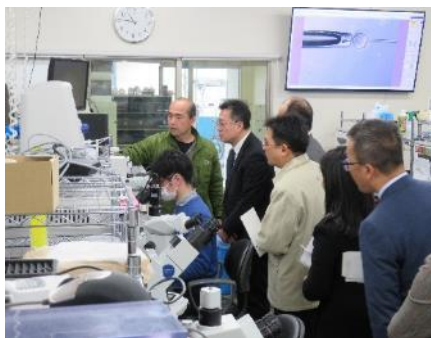
同大とは令和元年12月に大学間交流協定を締結し、学生および、教員・研究者の交流を行ってきました。

当日は、大村智記念学術館と発生工学研究センターを視察後、中村和彦学長、茅暁陽本学理事(グローバル推進担当)らと意見交換を行いました。

中村学長は、「五邑大学と本学との教育、研究分野での交流推進はもとより、交換プログラムの促進にも寄与し、今後の学生や教職員間の更なる交流を通じ、両大学の発展が一層期待される」と、楽理事長は、「山梨大学と本学は、共通する分野が多い。互いに協力し合い発展していきたい」とそれぞれ述べ、今後の両校間の友好と協力関係が一層深まる機会となりました。



大村智記念学術館見学の様子



発生工学研究センター見学の様子



中村学長と楽理事長

OBネットワーク

国際化推進センターでは、本学を卒業・修了した留学生とのネットワーク形成に向け、留学生同窓会の整備を進めています。

すでに同窓会に登録している卒業・修了生に対しては、山梨大学とのつながりを継続してもらえよう、大学広報誌である『Vine』電子版や、年末年始の挨拶状をEメールで送信するとともに、国際化推進センターウェブサイトにも、Eメールと同様の内容で卒業・修了生へのメッセージを掲載するなどしています。このような海外在住の本学出身留学生とのネットワークを、本学の広報活動、海外での優秀な留学生の獲得に活用したいと考えています。



大学刊行物 電子版 <https://www.yamanashi.ac.jp/about/281>

国際化推進センター・グローバル推進課ウェブサイト <https://www.ciee.yamanashi.ac.jp/>

国際交流協定の締結

2023 年度には、以下 2 件の大学間交流協定、4 件の部局間交流協定を締結しました。

大学間交流協定：

- ・2024 年 1 月 4 日：中国・蘇州大学
- ・2024 年 1 月 25 日：中国・西安医学院

部局間交流協定：

- ・2023 年 5 月 16 日：タイ・ラジャマンガラ工科大学（工学部）
- ・2023 年 5 月 31 日：カンボジア・カンボジア工科大学（国際化推進センター）
- ・2023 年 5 月 31 日：カンボジア・国際大学（国際化推進センター）
- ・2024 年 1 月 4 日：中国・蘇州大学（国際化推進センター）

その他の活動

進学説明会実施・参加及び留学フェアへの参加

国際化推進センター・教学支援部グローバル推進課では、優秀な留学生をリクルートするため、毎年国内外のフェアへの参加や日本語学校、海外の大学を訪問することを通して広報活動を行っています。

2023 年度は、以下 5 件の進学説明会又は留学フェアに参加し、本学の教育、研究上の特色、甲府市の住環境等に関する最新の情報を紹介し、地方の大学で学ぶメリットなど山梨大学の魅力をアピールしました。

- (1) 2023 年度外国人学生のための進学説明会（東京）：2023 年 6 月 24 日（土）
- (2) 2023 年度ユニタス日本語学校進学説明会（山梨）：2023 年 9 月 8 日（金）
- (3) カンボジア日本人材開発センター（カンボジア）：2023 年 10 月 27 日（金）～28 日（土）
- (4) 2023 年度 JASSO 主催日本留学フェア（ベトナム）：2023 年 11 月 25 日（土）～26 日（日）
- (5) 日越大学キャリアデザインウィーク（ベトナム）：2023 年 12 月 21 日（木）



外国人学生のための進学説明会



ユニタス日本語学校進学説明会



カンボジア日本人材開発センター



JASSO 主催日本留学フェア

II. 学生交流

さまざまな分野で国際的な視野を持って活躍する人材を育成するため、日本人学生の海外派遣や、各国留学生との交流事業に力を入れています。日本人学生の海外留学や海外インターンシップへの関心は年々高まっており、派遣人数も増加傾向にあります。

また、海外派遣だけでなく、留学生受入数のさらなる増加を目指し、学生訪問団の受け入れや、在籍する留学生のサポート事業にも力を注いでいます。

海外への学生派遣

1. 交換留学

以下の通り、計7名の学生を派遣しました。

国・地域	留学先大学	期間	人数
英国	オックスフォード・ブルックス大学	2023年9月出発～2024年5月帰国	1名
オーストラリア	シドニー工科大学	2024年2月出発～2024年11月帰国	1名
中国	杭州電子科技大学 *A3I プログラム P. 20～21 参照	2023年9月出発～2024年1月帰国	2名
韓国	釜慶大学校 *A3I プログラム P. 20～21 参照	2023年9月出発～2023年12月帰国	2名
マレーシア	マレーシア・ペルリス大学 *A3I プログラム P. 20～21 参照	2023年10月出発～2024年2月帰国	1名

2. 海外研修プログラム

例年、本学のプログラムとして、交換留学のほか、夏季・春季休暇中に語学・文化研修と、語学・文化研修に企業や学校、地方自治体でのジョブ・シャドイング（インターンシップ）が加わった海外研修を行っています。今年度は夏季・春季研修ともに現地に渡航してプログラムを実施しました。それぞれのプログラムについて以下にご報告します。

（1）夏季海外研修プログラム

協定校である下記の4校にて夏季海外研修プログラムを実施し、計35名の学生が希望するプログラムに参加しました。

国・地域	留学先大学	期間	人数
米国	ノーザン・アイオワ大学	2023年8月13日～9月17日	10名
カンボジア	王立プノンペン大学、国際大学、カンボジア工科大学	2023年8月16日～9月1日	7名
中国	杭州電子科技大学 *A3I プログラム P. 21 参照	2023年8月6日～8月18日	9名
韓国	釜慶大学校 *A3I プログラム P. 21 参照	2023年8月7日～8月17日	9名

（2）春季海外研修プログラム

協定校である下記の4校にて春季海外研修プログラムを実施し、計36名の学生が希望するプログラムに参加しました。

国・地域	留学先大学	期間	人数
米国	ケンタッキー大学	2024年2月4日～3月9日	9名
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学 イングリッシュ・ランゲージ・インスティテュート	2024年2月25日～3月24日	11名
カンボジア	王立プノンペン大学、国際大学、カンボジア工科大学	2024年3月上旬～中旬	3名
マレーシア	マレーシア・ペルリス大学 *A3I プログラム P. 21 参照	2024年2月17日～2月29日	13名

① 米国・ノーザン・アイオワ大学英語・文化研修＋海外インターンシップ

日程：2023 年 8 月 13 日～9 月 17 日

本プログラムでは、山梨大学国際交流センターが交流協定を締結している米国アイオワ州シーダーフォールズにあるUniversity of Northern Iowa（ノーザン・アイオワ大学）のThe Culture and Intensive English Program (CIEP)における英語研修及びノーザン・アイオワ大学での授業参観やイベントへの参加に加え、アイオワ州での文化体験とジョブ・シャドイングにも参加しました。

CIEP での 4 週間の語学研修では、習熟度に合わせて週 20 時間の英語レッスンを受講し、ホームステイや周辺地域への小旅行等を通して、学んだ英語を実際に使いながら、アメリカ文化を体験しました。



② 米国・ケンタッキー大学英語・文化研修

日程：2024 年 2 月 4 日～3 月 9 日

本プログラムでは、米国ケンタッキー州内の最大規模の州立大学ケンタッキー大学（UK）の Center for English as a Second Language (CESL)が運営する英語研修、文化研修、および、現地で開催される多様なイベントに参加します。ケンタッキー大学は 1865 年に設立され、U.S. News and World Report 誌によれば同州最高の学術研究機関でありながら、スポーツも盛んで、男子バスケットボールでは多くの NBA 選手を輩出しています。

語学研修では、各学生の英語レベルに応じて、各国から来た学生で構成されるクラスにて、きめ細やかな指導を受けることができます。毎日（月～木曜日）リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの各授業にて、コミュニケーションに必要な語学力の習得し、英語の授業のほか、現地の学生との交流活動に参加しました。渡航前、渡航後にも 1 回ずつオンラインにて現地学生との交流を行いました。



③ カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学イングリッシュ・ランゲージ・インスティテュート英語・文化研修

日程：2024年2月25日～3月24日

ブリティッシュ・コロンビア大学（英：The University of British Columbia、略称：UBC）は、カナダのブリティッシュ・コロンビア州、バンクーバー市にあるカナダ州立の名門総合大学で、1908年に創立され、国際的に知名度も高いカナダ屈指の大学です。これまでの卒業生の中から3人のカナダ首相、さらに7人のノーベル賞受賞者を輩出しており、カナダの大学のランキングで常にトップ3に入る教育・研究面での水準の高さを誇っています。

今回の春季研修では、大学内にあるELI（English Language Institute）のASPIRE Intensive on Campusプログラムへの参加を通じて、現代的なトピックやテーマを通して英語を学び、気候変動対策、反人種主義、インクルーシブ・エクセレンス、ジェネレーティブ AI を含むデジタルリテラシーなどについて学びました。

また期間中は、ホームステイをし、現地の生活を体験しました。



④ カンボジアのグローバルヘルス課題解決に取り組む共同フィールドワーク

日程：

(夏季)2023年8月16日～9月1日

(春季)2024年3月上旬～3月中旬*参加者により異なる日程で研修を実施

2023年度からカンボジア短期派遣プログラムを開始しました。今年度は夏季と春季の年2回実施され、参加学生は合計10名でした。このプログラムは学生が各自の実習計画を立案し、それに基づいた活動をカンボジア農村部で実施します。学部生は家庭訪問や村の人々へのインタビュー、農業実習、子どもの健康調査等に取り組む、大学院生は水質分析などを実施しました。この過程でカンボジア協定校の学生との共同フィールドワークも実施しました。首都プノンペンではカンボジアの国立博物館や虐殺博物館等を見学し、歴史や文化を学ぶ、日本人起業家からお話を伺う、病院訪問なども体験しました。世界遺産訪問やトンレサップ湖水上生活訪問などの学生の独自企画の活動も行いました。



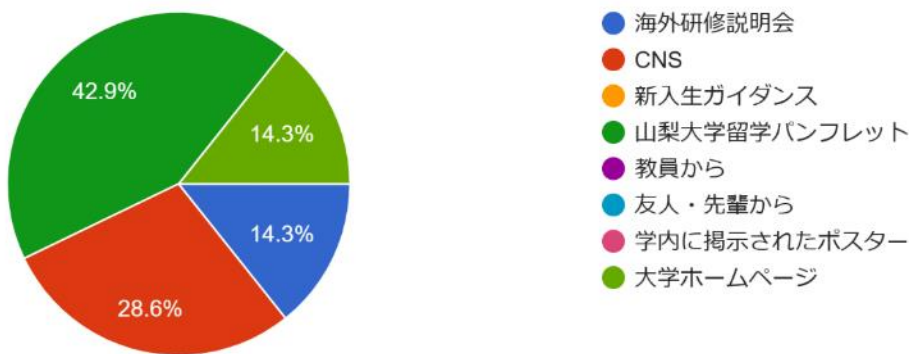
3. 海外留学のフォローアップ

本学のプログラムで留学する学生に対して、交換留学及び海外研修プログラム共に、事前指導や帰国後のフォローアップを行っています。その一つとして、留学・研修に参加する学生を対象に、留学前・留学後のアンケート調査を行っています。異文化交流や語学学習を通じて学生にどのような変化があるのかを測ると同時に、参加者の声を聞くことによって、次年度以降の海外研修プログラムの充実を図っています。

本報告書では、春季・夏季プログラムのうちのカナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学英語・文化研修の参加学生に対し実施したアンケート結果を紹介します。（参加者 11 名の内留学前 7 名、留学後 6 名が回答）

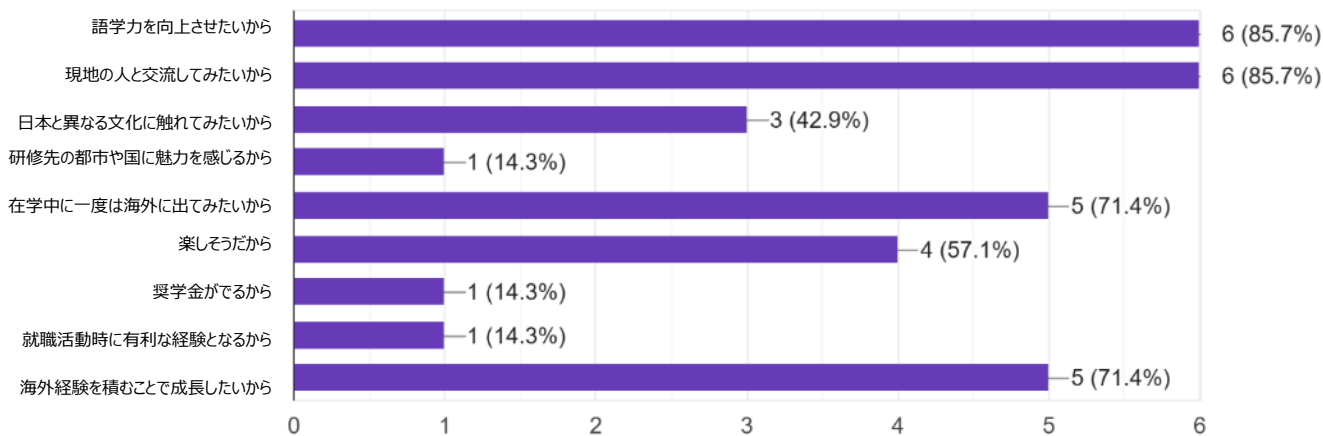
この語学研修を何で知りましたか？

7 件の回答



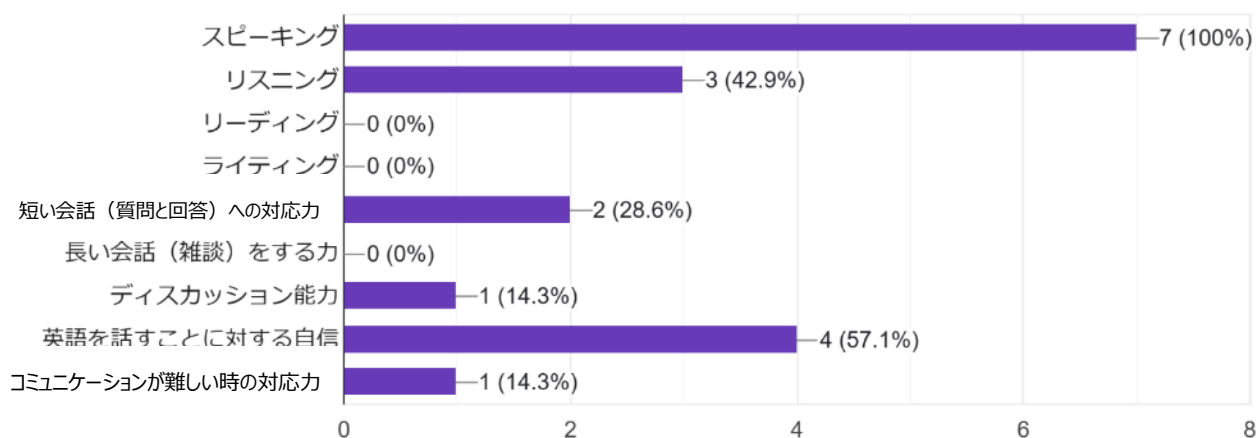
なぜ本研修に参加しようと思いましたか（複数回答可）。

7 件の回答



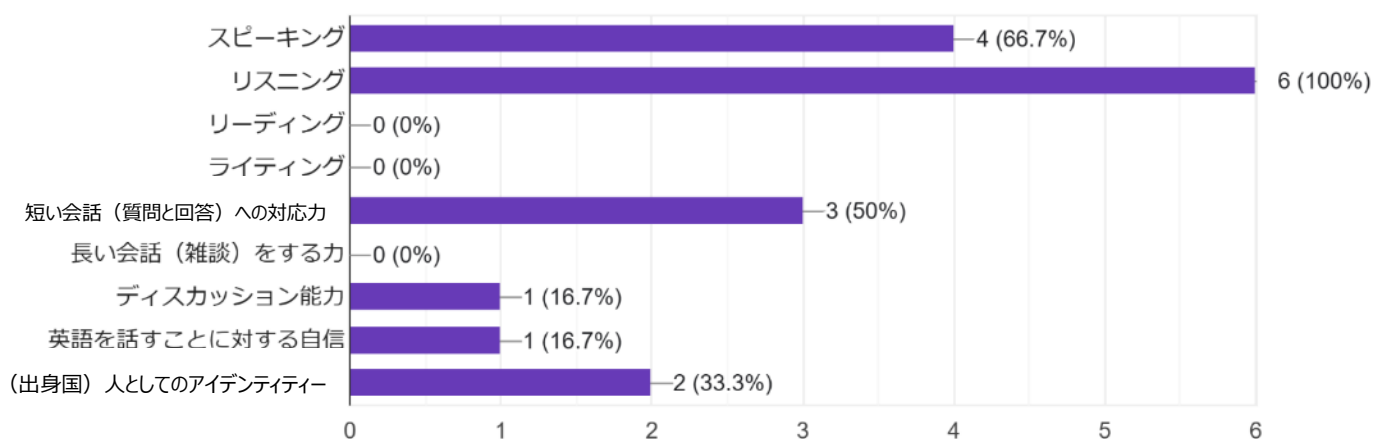
この研修で英語力の中のどのようなスキルを特に上達させたいですか（複数回答可）。

7 件の回答



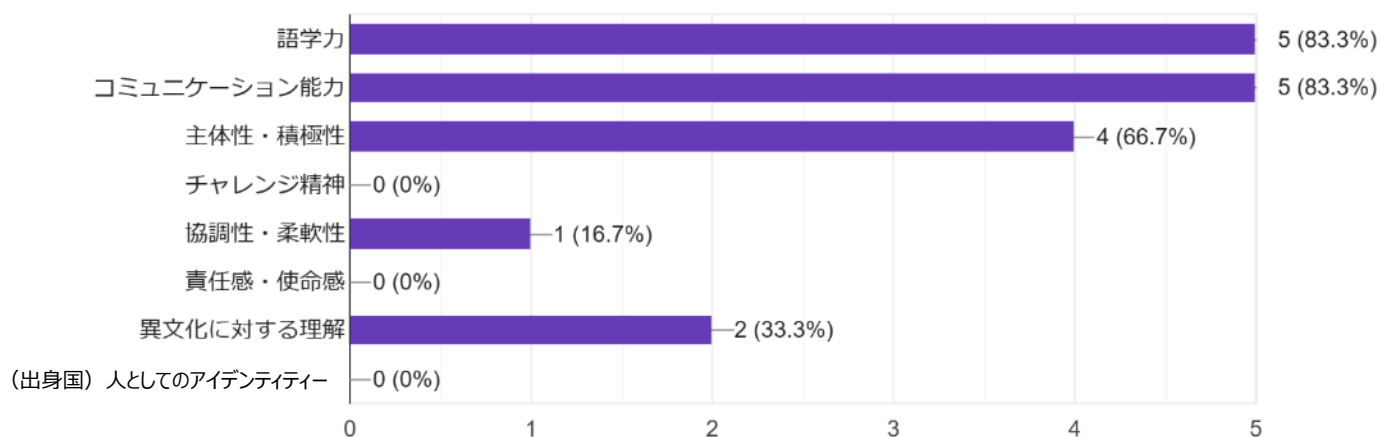
この研修で英語力の中のどのようなスキルが特に上達したと思いますか（複数回答可）。

6 件の回答



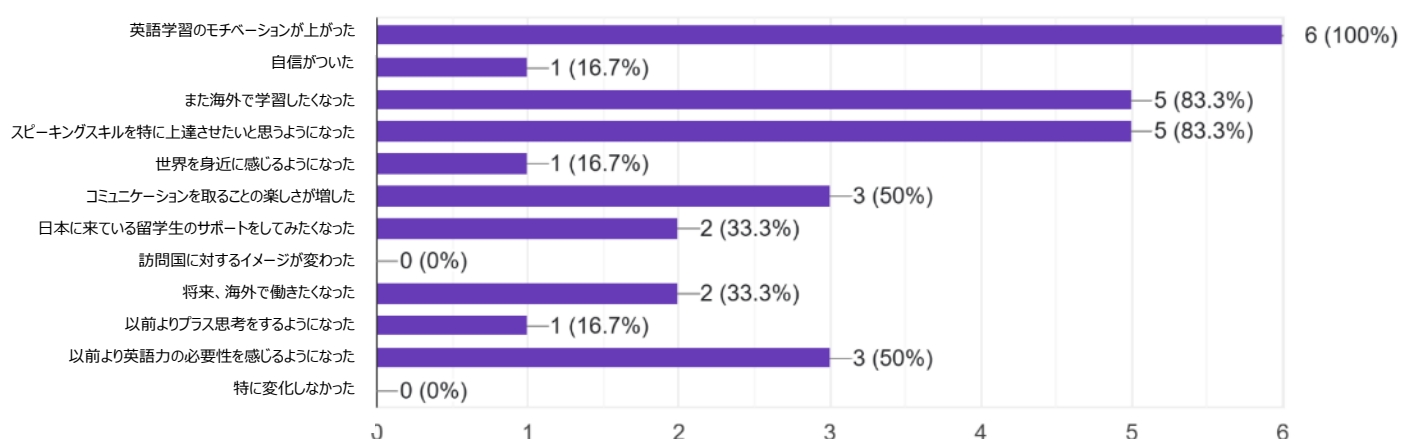
グローバル人材の条件として特に重要だと思う項目を3つ選んでください。

6 件の回答



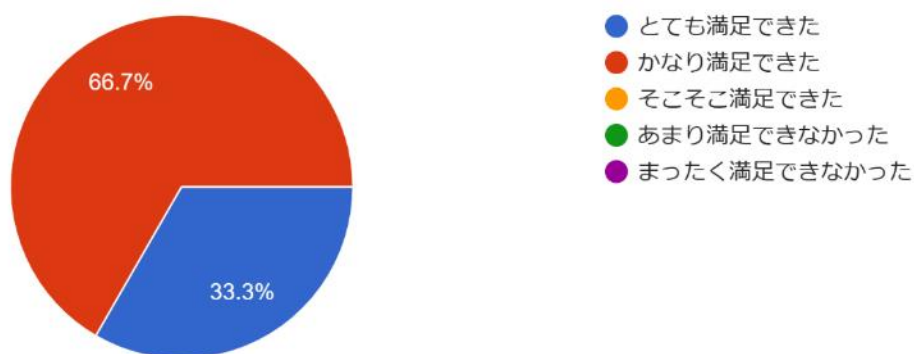
この研修によって、あなた自身は何か変化しましたか（複数回答可）。

6 件の回答



研修プログラムは満足できましたか？

6 件の回答



海外からの学生受入

2023年5月1日時点では28カ国から計235名の学生が、11月1日時点では30カ国から計265名の留学生在籍していました。

1. 交換留学

今年度の交換留学生数（2023年4月及び2023年10月留学開始）は以下のとおりでした。

国名・地域	大学名	受入学生数
英国	オックスフォード・ブルックス大学	1名
ドイツ	ドレスデン工科大学	1名
中国	外交学院	2名
	杭州電子科技大学	2名
	西南交通大学	3名

2. 日本語・日本文化短期プログラム

例年、海外の交流協定校との関係を強化し、本学の国際化を推進することを目的として、日本語授業と日本文化体験で構成される日本語・日本文化研修プログラム実施しています。今年度は2024年1月15日（月）～24日（水）の10日間の日程で、中国・蘇州大学の学生計19名が参加しました。本プログラムは、日本語・日本文化体験を主な目的として実施したもので、着付け、華道や風呂敷アートの体験のほか、河口湖エリアへの課外活動も実施しました。また、工学部、生命環境学部の研究室見学、および、企業見学に参加する機会も提供しました。



生け花体験の様子



研究室訪問

A3I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム(通称:A3I エースリーアイ)

大学の世界展開力強化事業 アジア高等教育共同体(仮称)形成促進キャンパスアジアプラスプログラム

本学では令和3年度文部科学省大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～アジア高等教育共同体形成促進～」に「A³I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム」を申請し、採択されました。(実施期間令和3年度～令和7年度)

以下は令和5年度における本プログラムの活動報告です。

A³I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム

ー 活動の概要と令和5年度の取組状況 ー

1. 「A³I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム」の概要

1.1 A³I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラムの背景と目的

文部科学省大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～アジア高等教育共同体形成促進～」は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業対象国・地域の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的とし、2011（平成23）年度から開始された。

令和3年度には「アジア高等教育共同体（仮称）形成促進」として、日中韓及びASEAN地域を中心としたアジア諸国との大学間連携による教育研究プログラムの公募が行われ、本学が申請した「A³I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム」が採択された。このプログラムでは、本学、杭州電子科技大学(中国)、釜慶大学校(韓国)、ペルリス大学(マレーシア)の4大学が連携し、各大学のAI研究・教育の強み、産業界との連携ネットワーク、および地域の実践フィールドを相補的に活用することで、AI国際産学連携の新たな教育モデルを確立し、アジア諸国との架け橋となり、Society5.0やDXを牽引するAI人材の育成を目的としている。

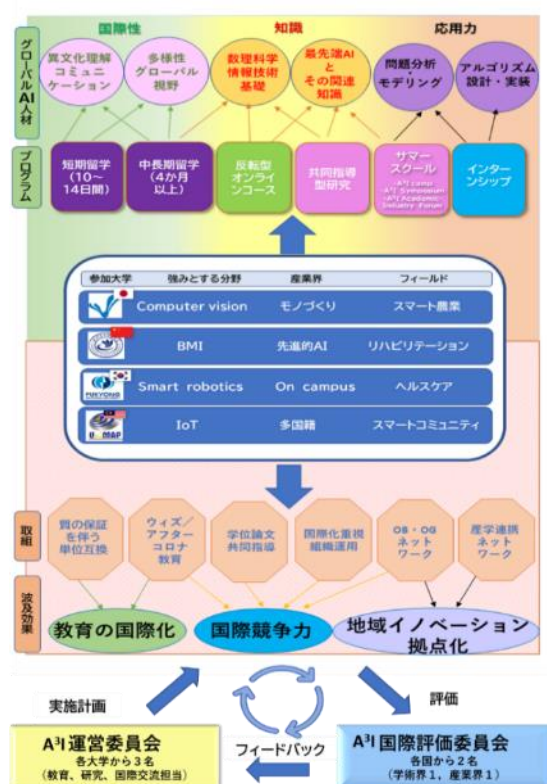


図1 本事業の概念図

1.2 人材養成目標とプログラム

日本とアジア諸国間の架け橋となつて、Society 5.0 と DX を牽引できる AI 人材として、国際性、知識、応用力の3側面から、以下の6項目の素養と能力を有する人材の育成を目標とする。

1. 国際性

- ① 異なる言語や文化背景の人々と共に行動できる異文化理解・コミュニケーション能力
- ② 多様な価値観を尊重し、国際社会のニーズと枠組みを理解できるグローバルな視野

2. 知識

- ③ 強固な数理科学と情報技術の基礎
- ④ 最先端の AI 技術とその関連知識

3. 応用力

- ⑤ 分野を超えて各種の問題の本質を捉え、定式化するモデリング力
- ⑥ 問題に合わせて効率的なアルゴリズムを設計し、実装する力

以上を達成するために、多様なプログラムを提供する。具体的には、with/after コロナ時代に備え学年歴の差異を吸収した反転型オンラインコース、各国の文化に根ざし国際性を涵養する短期交流プログラム、各大学の特色ある研究・教育環境をフル活用できる長期留学、実問題解決を通して応用力を鍛えるハイブリッド型サマーキャンプ、共同研究成果と最新技術動向を共有する国際シンポジウム、産学連携を強化する産学連携フォーラム、各大学の産学連携ネットワークを活用したインターンシップ、さらに、質を伴った単位互換システムの構築により、豊かな国際性と確かな AI 技術・高度応用力を修得させるデュアルディグリープログラムである。毎年度 140 名以上の学生が参加し、5 年間 4 カ国で計 70 名以上のデュアルディグリー修了生を育成する計画である。

2. 令和 5 年度の取組状況

令和 5 年度の学生交流プログラムでは、短期プログラムとして山梨大学で 18 名の学生を受け入れ、中国、韓国、マレーシアへ 26 名の学生を派遣した。また中国の杭州電子科技大学ではサマースクールを開催し、山梨大学から 5 名の学生が参加した。中長期留学では日本から 5 名を派遣し、9 名を受け入れた。オンラインでは山梨大学がホストとなり、2 月に AI アプリケーションデザインに関する flipped classroom の授業を実施した。これらのプログラムを通して、学生は最新の AI 技術の習得や異文化体験、国際コミュニケーション能力の向上などの成果を得た。また、教員間の連携や共同研究の推進にもつながった。

質の保証を伴った大学間交流形の枠組形成に向けて取り組みとして、学生は短期プログラムやサマースクール、オンラインコースなどの学生交流プログラムを通して、AI 技術の習得や異文化体験、国際コミュニケーション能力の向上を図っている。各プログラムの質の保証のため、各プログラム終了後に参加学生へのアンケート調査を実施し、プログラムの評価や学生の能力向上について把握している。また、外部評価委員会を開催し、プログラム全体の評価を受けることで、PDCA サイクルを実践し、質の高い大学間学生交流プログラムを提供できるようなシステムを構築した。

教員間の交流や共同研究の推進により、各大学の学生の国際交流および研究環境がさらに充実することとなった。

2.1. 各プログラムの取り組み内容

2.1.1 中長期留学

中長期派遣プログラムは、本事業の中でも重要な取組の一つであり、学生が数か月から 1 年の中長期海外留学を行う。中長期的に派遣先大学の教員の下で研究を行い、新たな知識やスキルを習得し、自分の専門分野に

ついて深く理解することができ、問題を多面的に分析する能力の涵養が期待できる。また、デュアルディグリープログラム参加学生は、派遣先大学の正規学生として学生生活を経験することができ、自身の学問領域だけでなく、留学先の学生との交流を通じて文化や社会についても深く学ぶことができ、異文化理解を深め、コミュニケーション能力を強化する重要な機会となった。さらに、この留学経験を通じて、自分の強みや弱み、価値観や興味を再評価し、自己成長するとともに、異なる文化や教育環境での経験によりグローバルな視点を養うことができた。

以上のように、本プログラムは学術的な研究、異文化理解、自己成長、グローバルな視点の獲得といった多様な経験を学生に提供した。このような経験が学生の人生における重要な節目となり、彼らの将来のキャリアや人生観を形成するための基盤となることを期待する。

2023 年度の中長期留学の参加者数は次の通り：

- ・ University of Yamanashi（山梨大学）：5 名
- ・ Hangzhou Dianzi University（杭州電子科技大学）：5 名
- ・ Pukyong National University（釜慶大学校）：1 名
- ・ Universiti Malaysia Perlis（マレーシア・ペルリス大学）：3 名



釜慶大学校への留学



マレーシア・ペルリス大学にてサッカー場での AI 研究様子

2.1.2 短期学生交流（ショートプログラム）

ショートプログラムでは、近年の学生の国際交流における心理的な壁を取り払うための第1歩として、学生が感じるハードルを下げ、海外へ踏み出す契機となるよう、各国の文化体験等で構成している。派遣先（本事業参加の各大学）の教員から直接授業が受けられ、現地の学生と交流することで新たな視点と知識を得ることができる絶好の機会であり、この体験を足掛かりに、海外や海外の大学に意識を向けるというマインドを養わせることとしていた。

2023 年度は夏季に韓国 PKNU、中国 HDU、日本 UY、春季に Unimap にてそれぞれショートプログラムを開催し、4 か国各国の文化体験、言語の講座、AI のワークショップ、ラボツアー、各国からの参加者が混在したグループングを行い、国際交流に関するディスカッションなどの活動を行った。4 か国併せて 80 名の学生が参加した。

ショートプログラムではコミュニケーション能力を鍛えるだけでなく、異文化理解を深め、それに対応する能力を身につけることや、新たな環境で様々な視点から世界を見て、感じることで、改めて自己の興味や価値観、強みや弱みについて深く考える機会を与えることで、学生の自己成長の促進の機会とした。

以上のように、ショートプログラムは学術的な学びだけでなく、異文化理解、コミュニケーションスキル、自己成長といった様々な面で学生に価値ある体験を提供した。参加学生にとっては、世界をより広く深く理解するための重要な一歩となった。



テコンドー体験



杭州西湖へのエクスカーション



風呂敷体験



ラボツアー

2.1.3 インターンシップ

運営委員会にて検討を行い、2023 年度中長期留学に参加した学生は、派遣先大学にてインターンシップの機会を提供することとし、各大学が企業と連携しインターンシップの機会を提供した。インターンシップでは AI が実際の産業においてどのように活用されているかを学び、企業の研究者と AI の活用についてディスカッションを行い、実際に研究や制作の現場を体験した。

参加学生からは、私の研究だけでなく、将来にとっても有益なものであり職場環境を知る良い機会だったとの声が寄せられ、各国の企業や職場について知る機会を提供し、今後の進路や研究の方向性を改めて考えるきっかけを与えることが出来た。



2.1.4 反転型オンラインコース

2023 年 2 月に本学において、AI システムデザインに関するオンライン集中講座を開催し、4 大学から 16 名の学生が受講した。本講座は、各大学の学年暦の違いに影響がなく、学習効果を高めること、自国にいながら海外の大学から最先端の AI 理論や応用技術を学ぶことができ、グループディスカッションを通じて理解を深めることを目的として実施した。

また、デザイン思考の第一人者である台湾のシナリオ・ラボ創設者兼 R&D ディレクターの Der-Jang Yu 博士を講師に招き、「デザイン思考とシナリオ指向の共同デザイン」と題した特別講義を行った。授業では、「差別

化」の課題を見つけるフィールドワークが課され、各国の学生で構成されたチームごとに、授業で学んだアプローチを活用して、その課題を解決するための AI 技術を考案した。本講座は、デザイン思考の実践方法を学ぶ貴重な機会となった。

この科目の単位は、4 大学において認定を受けることができる仕組みを構築した。

2.1.5 サマースクール

2023 年 8 月 6 日（日）～ 18 日（金）中国 HDU にて開催された。研究室訪問や Dahua Technology などの企業訪問を通して、AI が実際にどのように実問題解決に役立てられているかについて実際に触れ、体験した。また最新の深層学習及び応用技術に関する講義、AI による実問題解決プロジェクトを実施した。4 大学の学生が混合チームを編成し問題分析、アルゴリズムデザイン、プログラム実装を実践した。各大学から 17 名の学生、教育補助員として本学の学生 4 名、そして各大学から計 6 名の教員が参加した。

参加学生にとって非常に有意義なプログラムとなり、AI 技術とその応用に対する理解を深める機会となった。また、本学内に向けてもオンライン配信を行ったため、教職員にとっても AI の最新動向に触れるよい経験となった。



企業訪問



研究プロジェクトの発表

2.2 教職員の交流

2.2.1 韓国・国立釜慶大学校（PKNU）の教員が来学

2024 年 1 月 8 日（月）～9 日（火）、本学交流協定校の韓国・国立釜慶大学校（PKNU）より Sang-Ho Oh 助教（AI・コンピュータ理工学科）が来学した。

A3I プログラム参加希望者のための講演会「Application of reinforcement learning in healthcare management」を実施し、Oh 助教に釜慶大学校の紹介や研究室紹介を行っていただき、本学教員・学生と研究内容を共有した。その後、茅理事（学術研究・グローバル推進担当）、コンピュータ理工学科小澤賢司教授、郷健太郎教授、豊浦正広教授、朱臻陽助教、メカトロニクス工学科西崎博光教授を交え、A3I プログラムについての意見交換および共同研究についてのディスカッションを行った。また、現在、釜慶大学校より、A3I プログラムにて 1 名の学生が本学に留学しており、学生の留学生活についての近況報告とフォローアップを行い、有意義な学術交流となった。



Sang-Ho Oh 先生の講義

2.2.2 山梨大学の教職員中国訪問

2024年1月15日（月）～18日（木）、本学工学部コンピュータ理工学科・鳥谷輝樹助教が本学交流協定校の中国・杭州電子科技大学(HDU)を訪問した。

今回の訪問では、杭州電子科技大学コンピュータサイエンス学部長・Kong Wanzeng 教授の研究室を訪問し、研究室・施設の見学や研究室メンバーと研究交流を行った。研究に関する意見交換及び今後のA³Iプログラムにおける学生交流について意見交換を行い、今後の両研究室のさらなる交流促進のきっかけとすることが出来た。また、現在杭州電子科技大学に留学している本学学生と面談し、学生の近況報告とフォローアップを行った。



集合写真



研究室のメンバーとのディスカッション

2.3 交流プログラムの質の向上のための評価体制 運営委員会の開催

2023年度は運営委員会を2回、その後各大学運営委員とそれぞれ継続的に会議を行った。1回目の運営委員会では今年度の学生派遣とDDのMOAについて最終確認を行った。また、大学間のカリキュラムの擦り合わせを行い、単位互換及びDD取得希望学生の履修モデルの確認、本年度の各プログラムの開催時期等について、検討と確認を行った。2回目の運営委員会はショートプログラム開催についての具体的な内容の確認を行った。2023年3月に、4大学の代表者によって「A³I運営委員会」を発足させた。運営委員会で各国の各大学教員がメンバーとして参画し、プログラムの運営方針から単位に関わる事などの実質的な内容の検討、決定を行っている。一方で、自己評価、点検を行うため、各国の学术界、産業界から選定された有識者で構成する外部評価委員会を発足させた。

2.3.1 外部評価委員会の開催

2024年3月のすべての取組が終わるタイミングである3月に予定を変更し、第2回国際外部評価委員会評価をいただいた。各国から学术界、産業界のAI分野最先端にて活躍される有識者8名を委員として招き、本プログラムの実施状況と今後の方向性において、意見を頂いた。

外部評価委員会を開催し、産業界、学术界の有識者から本プログラムの内容と運用について貴重な意見を頂くことが出来た。特に産業界との連携やプログラムの評価について大切な観点を各委員から指摘いただき、これらを次年度以降のプログラム改善に活かす予定である。

2.3.2 山梨大学1期生がDD学位を取得

A³Iプログラム第1期生の学生3名が、デュアルディグリープログラムを修了し、本学及び韓国釜慶大学校の両大学からの学位を取得し、卒業した。学生らは修士1年次（2022年）に釜慶大学校へ中長期留学をし、その後2年間という限られた期間の中、各種プログラムや授業への参加、研究活動に全力で取り組みデュアルディグリーの取得をした。

3. 今後の展望

初年度に構築したプログラム運営の基礎を基に、前年度に引き続き、各大学の強みを踏まえ、反転型オンラインコースの実施、A3I 運営委員会を開催し、夏の短期（派遣・受入）プログラム、サマースクール及び長期（派遣・受入）プログラムの実施、サマースクール、インターンシップを開催してきた。今後もさらにこのプログラムを推進し、DD取得のための派遣者受入者数を増やしすべく、2024 年度も引き続き学生交流を中心に行っていく。2024 年度には博士学生向けにも 4 か国共有のオンライン科目を開設し、4 か国の学生がより授業に参加しやすい環境を整えることとしている。

4 年度となるため、このプログラム内容について、再度検証し、今後の自走でのプログラム運営に向けての検討も引き続き A3I 運営委員会にて検討を行っていくこととしている。また、A3I 国際評価委員会の評価結果を踏まえた今後の取組について検討し、必要に応じて改善を行う。

これまでの達成された成果により、2024 年度は、さらに本格的に各学生交流プログラム遂行を行っていく。今後も、学生たちにとって最高の学習体験を提供するために、一層の努力を続けていく。

III. 日本語教育・留学生サポート事業

留学生のための日本語教育および修学・生活上の指導・相談、外国人留学生向けイベントなどの外国人留学生支援にも力を注いでいます。

日本語教育

1. 日本語 Intensive コース

国際化推進センターにて開講している日本語 Intensive コースについて、年次報告にて報告します。

2023 年度 日本語 Intensive コースの報告

布村 猛

1. 日本語 Intensive コースの概要

国際化推進センターで提供している日本語 Intensive コースには、「日本語 Intensive 入門 I」、「日本語 Intensive 入門 II」、「日本語 Intensive 初級」の3つの授業がある。いずれのコースも指導教員の許可を得た私費留学の研究生、英語コース所属の大学院生、そして交流協定大学からの交換留学生を受講生として受入れている。単位取得を必要とする交換留学生に関しては、必要要件を満たしコースを修了した者には単位認定を行っている。「日本語 Intensive 入門」コースは「大学院や教員研修などの勉学生活に入るために基礎的な日本語力の習得をめざす」ことを目標としており、「日本語 intensive 初級」コースは「大学・日常生活を円滑に送るため、入門コースで学んだ知識を運用に結びつけ、読む・書く・聴く・話す、の四技能においてコミュニケーション力を中級レベルへ高めること」を目指している。いずれのコースも指導教員の許可を得た私費留学の研究生、そして交流協定大学からの交換留学生も受講生として受入れている。単位取得を必要とする交換留学生に関しては、必要要件を満たしコースを修了した者には単位認定を行っている。これらのコースは言語のみならず、文化、そして地域社会について学べる環境を提供しつつ、日本や山梨のよき理解者へと育成することを目指している。

2. 2023 年度 前期 日本語 Intensive コース

2.1. 前期 日本語 Intensive 入門 I (週 6 コマ)

受講生は、5 名だった。授業は、週 2 回 6 コマの頻度で行われた。6 コマのうち、4 コマは新出文法や単語に焦点を当てた授業であった。残りの 2 コマのうち、1 コマは漢字の授業、もう一方はプレゼンテーションの授業だった。プレゼンテーションのトピックは、自身が博士課程で行なう研究内容あるいは自身の専門にまつわる関心の発表であった。科学的な内容を含んでおり、非常に複雑な内容であったが、図やグラフなどを使用し、工夫しながらプレゼンテーションのスライドを作っていた。

使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『みんなの日本語初級 I 本冊』

副教材：『みんなの日本語初級 I 第 2 版 書いて覚える文型練習帳』

『みんなの日本語初級 I 第 2 版 標準問題集』

(いずれもスリーエーネットワーク)

2.2. 前期 日本語 Intensive 入門 II (週 6 コマ)

受講生は、1 名だった。授業は、週 1 回 (各回は 3 コマ) の頻度で行われた。3 コマのうち、2 コマは新出文法や単語に焦点を当てた授業であった。残りの 2 コマのうち、1 コマは漢字の授業、もう一方はプレゼンテーションの授業だった。

使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『みんなの日本語初級Ⅱ 本冊』

副教材：『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 書いて覚える文型練習帳』

『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 標準問題集』

(いずれもスリーエーネットワーク)

2.3. 前期 日本語 Intensive 初級 (週5コマ)

受講生は、5名だった。授業は、週3回5コマの頻度で行われた。5コマのうち、2コマは新出文法や会話表現に焦点を当てた授業であった。残りの3コマのうち、2コマは読解の授業、1コマはプレゼンテーションの授業だった。本授業の最大の特徴として、留学生が自身の研究や専門を紹介するプレゼンテーションを日本語で行う点にある。これは、自身の専門分野で一般的に使用される専門語彙を、一般的な日本語教育過程よりも、早い段階で学び、使用可能とすることを目的としたものである。これにより、研究室内でのコミュニケーションや、就職活動を日本でする際のコミュニケーションの活発化が期待される。

使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『Weekly J:日本語で話す6週間』(凡人社)

：『改訂版 日本語中級 J301 -中級前期-』(スリーエーネットワーク)

プレゼンテーションでは、「英国における食文化と他国からの評価」「タロイモの食用を超えた使用可能性と持続性のある社会への貢献」というテーマで発表があった。

3. 2023年度 後期 日本語 Intensive コース

3.1. 後期 日本語 Intensive 入門Ⅰ (週6コマ)

受講生は、5名だった。授業は、週2回(各回は3コマ)の頻度で行われた。6コマのうち、4コマは新出文法や単語に焦点を当てた授業であった。残りの2コマのうち、1コマは漢字の授業、もう一方は作文や会話表現などの授業だった。

使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『改訂版 聞く・考える・話す留学生のための初級日本語会話』

『みんなの日本語初級Ⅰ 本冊』

副教材：『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 書いて覚える文型練習帳』

『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 標準問題集』

(いずれもスリーエーネットワーク)

授業時間の中では、新規語彙・文法項目の使い方を学び口頭練習を行うのみで、応用問題は次回までの課題としたが、受講生の熱心な予習・復習と作文課題などへの取り組みにより、1課を1コマずつ、導入と練習の後にはできる限り受講生同士の対話ができるような時間を取り、場面にあった発話ができるよう促した。6、7課ごとのテストは言語知識を問うものだけではなく、場面設定のある会話で運用力をみるタスクを与え、評価を行った。

3.2. 後期 日本語 Intensive 入門Ⅱ (週6コマ)

授業の受講生は、2名であった。前期と同様に、この授業は、週2回(各回は3コマ)の頻度で行われた。授業内容も変更はなく、6コマのうち、4コマは新出文法や単語に焦点を当てた授業であった。残りの2コマのうち、1コマは漢字の授業、もう一方はプレゼンテーションの授業だった。最後の回にプレゼンテーション発表が

あったが、受講生が来日できていなかったため、こちらもオンラインで行った。プレゼンテーションのトピックは、自身の研究内容であった。このプレゼンテーションでは、単に研究内容を紹介するだけにとどまらず、自国の大学での研究環境、自身の研究がどのように役立つのか、自身の研究をもとに将来やりたいこと等に関してもしっかりと説明しており、真摯に取り組む姿勢が見られた。

使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『改訂版 聞く・考える・話す留学生のための初級日本語会話』

：『みんなの日本語初級Ⅱ 本冊』

副教材：『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 書いて覚える文型練習帳』

『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 標準問題集』

(いずれもスリーエーネットワーク)

3.3. 後期 日本語 Intensive 初級 (週5コマ)

受講生は、2名だった。授業は、週3回6コマの頻度で行われた。5コマのうち、2コマは新出文法や会話表現に焦点を当てた授業であった。残りの3コマのうち、2コマは読解の授業、1コマはプレゼンテーションの授業だった。本授業の最大の特徴として、留学生が自身の研究や専門を紹介するプレゼンテーションを日本語で行う点にある。これは、自身の専門分野で一般的に使用される専門語彙を、一般的な日本語教育過程よりも、早い段階で学び、使用可能とすることを目的としたものである。これにより、研究室でのコミュニケーションや、就職活動を日本でする際のコミュニケーションの活発化が期待される。

使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『Weekly J:日本語で話す6週間』(凡人社)

：『改訂版 日本語中級 J301 -中級前期-』(スリーエーネットワーク)

プレゼンテーションでは、「甲府市の都市開発の可能性」「若年層にラジオ文化が与えた影響」というテーマで留学生から発表があった。

5. まとめ

近年、山梨大学内でも日本語教育のニーズは多様化しており、必ずしもアカデミックな場面で日本語を使うことのない学生も intensive 日本語を受講するようになっている。大学内でのニーズも日本語で論文が書けるようなことから、日本語でのコミュニケーションが口頭で取れることに変わっており、そのようなニーズに対応する教育プログラムを提供する必要があると考える。アカデミックな日本語の習得につながる、語彙や文型指導を残しながらも、単純なパターンプラクティスを減らし、使用場面を意識したコミュニケーション練習を取り入れることでそのようなニーズに対応していく。また、プレゼンテーションを活用し、留学生の専門領域の周辺にある語彙の習得をサポートする。

2. 日本語補講

日本語補講は、国際化推進センターが提供する授業科目以外の日本語教室です。主として大学院生や研究生を対象とし、研究者またはその家族にも開かれたプログラムとなっています。実施状況について国際化推進センター江崎哲也教授の年次報告にて報告します。

日本語補講

江崎 哲也

1. 留学生を取り巻く状況と、本学の日本語教育

国際化推進センターでは、2023 年度は表 1 に示すように、(1)学部留学生向け日本語科目を年間 12 コマ、(2) Intensive 日本語コースを年間 34 コマ、(3)日中研究が忙しくてそれらの授業に出られない大学院生や研究生のためにV時限(16 時 30 分～)以降に日本語補講を年間 12 コマ開講した。このように数多くの日本語の授業・補講を提供しているのは、留学生が入学後できるだけ短期間のうちに日本語を習得し、専門の勉強や研究を支障なくできるようにするためであり、レベル別のクラスできめ細かく丁寧に指導する必要があるからである。また、本学の第 4 期中期目標・中期計画において設定されている留学生受け入れ数値目標を達成し、さらに、ポスト留学生 30 万人計画を見据えて、大学内で留学生の日本語能力を高め、日本国内の企業に就職させていくことが必要とされているためである。

表 1 国際化推進センター開講科目一覧(日本語科目・日本語補講のみ)

開講科目	コマ数/年度	受講開始時のおおよその日本語レベル * JLPT: 日本語能力試験	出席が必要な コマ数
(1)学部留学生向け日本語科目	12 (4 レベル)	JLPT N2 以上 (日本語学習歴 600 時間以上)	1～2 コマ/週
(2)Intensive 日本語コース	34 (3 レベル)	入門期から JLPT N4	5～6 コマ/週
(3)日本語補講	12 (6 レベル) ただし授業回は 12 回	入門期から JLPT N5 (両キャンパス) JLPT N3 (主に甲府キャンパスの学生) JLPT N2 (主に医学部キャンパスの学生)	1～2 コマ/週

2. 日本語補講の完全オンライン化に伴うスリム化

2020 年度は昨今の留学生施策を鑑み、2020 年度はそれ以前に比し 2 コマ増の計 16 コマ相当の時間を日本語補講としてオンラインで開講してきた(表 2 参照)。しかしながら、オンラインであっても十分学習効果が得られることが確認できたため、2021 年度以降は表 3 に示す通り、基本的には所属キャンパスの区別をなくし、6 レベル 6 クラスを開講し、それぞれ前期・後期ごとに週 1 回 12 週にわたって展開された。なお、この日本語補講は、単位認定の対象にはならず、席が用意できる限りは、留学生の家族、研究者・研究員にも受講を認めている。

表 2 「日本語補講」一覧 2020 年度

キャンパス	クラス名	開講学期	対象レベル (日本語学習歴)	クラスにおける総学習時間
甲府	K-A (入門 1)	前期・後期	0-25 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-B (入門 2)	前期・後期	15-50 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-C (初級 1)	前期・後期	35-100 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-D (初級 2)	前期・後期	50-100 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-E (論文作成・口頭発表)	前期・後期	450 時間以上	18 時間 (90 分×12 回)
医学部	M-A (入門)	前期・後期	0-25 時間	12 時間 (60 分×12 回)

	M-B (初級)	前期・後期	15-50 時間	12 時間 (60 分×12 回)
	M-C (初中級)	前期・後期	35-100 時間	12 時間 (60 分×12 回)
	M-E (論文指導・医療の日本語)	前期・後期	600 時間以上	18 時間 (90 分×12 回)

表 3 「日本語補講」一覧 **2021 年度以降**

キャンパス	クラス名	開講学期	対象レベル (日本語学習歴)	クラスにおける 総学習時間
甲府/医学部	K-A (入門 1)	前期・後期	0-25 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-B (入門 2)	前期・後期	15-50 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-C (初級 1)	前期・後期	35-100 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-D (初級 2)	前期・後期	50-100 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-E (論文作成・口頭発表)	前期・後期	450 時間以上	18 時間 (90 分×12 回)
	M-E (論文指導・医療の日本語)	前期・後期	600 時間以上	18 時間 (90 分×12 回)

3. 2023 年度前期

2023 年度前期の開講クラス、及び申し込み者数は以下の表の通りである。

表 4 2023 年度前期各クラスの申し込み者数と使用テキスト

クラス名	申し込み者	使用テキスト/内容
入門 1	4 ¹	『まるごと 日本のことばと文化入門 A1 かつどう』 第 1 課～第 9 課
入門 2	10	『まるごと 日本のことばと文化入門 A1 かつどう』 第 10 課～第 18 課
初級 1	12	『まるごと 日本のことばと文化 初級 1 A2 かつどう』 第 1 課～第 9 課
初級 2	6	『まるごと 日本のことばと文化 初級 1 A2 かつどう』 第 10 課～第 18 課
論文作成・口頭発表	5	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習
論文指導・医療の日本語	0	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習、医療関連の日本語指導

4. 2023 年度後期

2023 年度後期の開講クラス、及び申し込み者数は以下の表の通りである。

表 5 2023 年度後期各クラスの申し込み者数と使用テキスト

クラス名	申し込み者数	使用テキスト/内容
入門 1	21	『まるごと 日本のことばと文化入門 A1 かつどう』 第 1 課～第 9 課
入門 2	12	『まるごと 日本のことばと文化入門 A1 かつどう』 第 10 課～第 18 課
初級 1	13	『まるごと 日本のことばと文化 初級 1 A2 かつどう』 第 1 課～第 9 課
初級 2	8	『まるごと 日本のことばと文化 初級 1 A2 かつどう』 第 10 課～第 18 課
論文作成・口頭発表	2	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習
論文指導・ 医療の日本語	0	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習、医療関連の日本語指導

¹ ウクライナに対する人道的支援の一環として、ХНПУ імені Г.С. Сковороди(ハルキウ国立教育大学, H.S. Skovoroda Kharkiv National Pedagogical University)の学生にも 2023 年度前・後期の日本語補講を開放したところ、合計 15 名の申し込みがあった。ウクライナからの申し込み者についても表 4 と表 5 の申し込み者数に含まれている。

5. 入門クラス等における使用教材の変更

6. 申し込み者数の変化と申し込み方法の変更

表6に2014年度から2023年度の日本語補講の申し込み者数の推移を示す。2014年度までは甲府キャンパスで3クラス、医学部キャンパスで5クラスの日本語補講を開講していたが、医学部キャンパスの1クラス当たりの平均申し込み者数が甲府キャンパスを下回ったため、2015年度から両キャンパスとも4クラスとした。また、2015年度後期からは各キャンパスの受講者のニーズにより適合したテキストに変更し、入門期から初級までの連続性があるクラスを開講した。さらに、2019年度後期に大学院の留学生が急増したことを受け、申し込み方法をweb申し込みに変更した。これらによって、2019年度後期には日本語補講の申し込み者数が89人に上った。前述のように2020年度は甲府キャンパスのコマ数が2つ増加したため、申込者の増加が見込まれたが、新型コロナウイルス感染症の影響が拡大したために、進学をあきらめざるを得ない学生もいたことから、後期は減少に転じた。2021年度についてはさらに受講者数が減少したが2022年度は申込者数が増加に転じた。これは「夏季/春季休暇 Intensive 日本語コース」が非常に充実したものであり²、本学進学前の受講生にも広く開放したため一時的に申込者数が減ったものの、2022年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響が多少弱まり、留学生数が増加し、ウクライナ在住のハルキウ国立教育大学の学生にも開放したためだと思われる。

表6 日本語補講の申し込み者数)の推移

	2014 年度		2015 年度		2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度		2020 年度		2021 年度		2022 年度		2023 年度		
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	前 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
甲府キャンパス	18	12	13	17	17	32	15	15	15	40	28	81	52	46	45	28	53	54	37	56	
医学部キャンパス	11	16	13	14	14	14	6	6	6	9	18	9	12	12							
合計	29	28	26	31	31	46	37	57	21	49	46	89	64	58	45	28	53	54	37	56	
甲府 3 クラス→			→甲府 4 クラス																		
医学部 5 クラス→			→統合。学部の区別なし																		
医学部 5 クラス→			→医学部 4 クラス																		
学部間共通テキスト→			→学部により異なるテキスト																		
学部間共通テキスト→			→共通テキスト																		
												→Web 申し込み									

7. まとめと今後の課題

2015年度から2021年度にかけて日本語補講に対して5つの非常に大きな変更（①受講希望者のニーズに合わせた両キャンパスのクラス数の変更、②使用テキストの変更、③各クラスのレベルに連続性を持たせたこと、④申し込みを紙ベースからwebに変更、⑤オンライン化とスリム化）を行ってきた。これらの改革と大学院留学生数の増加が相まって補講の申込者数は増加の一途をたどっていたが、2021年度の申し込み者数は減少したが2022年度は増加し、2023年度もほぼ同様の申し込み者数があった。また、参加した受講生に対してG-フィロス（本学のグローバル共創学習室）の「日本語サポート」を利用した実践的な練習を宿題として課すことによって、日本語力できる限り伸ばすよう努めてきた。

日本語補講の受講者の多くは、英語で研究する学生であるが、生活に必要な日本語の習得や大学院の授業を日本語で受講することを切望しており、一部は日本での就職も希望している。今後とも一層の日本語補講の充実を図り、大学院生や研究生などの日本語力の向上を目指して、彼らの日本での研究生活をより充実したものにして

² この「夏季/春季休暇 Intensive 日本語コース」は修了時に JLPT N4 程度まで日本語力を伸ばすものであるため、日本語補講 K-A~K-D レベルを遥かに超える力が身につく。そのため、受講者数が大幅に減ったと考えられる。

いくことが求められる。また、山梨県内在住の日本語非母語話者に対しても日本語補講を開放できるよう、検討していく所存である。

3. 日本語・国際共修科目

国際化推進センターでは、主に学部留学生を対象として、日本語・国際共修科目も開講しています。国際化推進センター江崎哲也教授の年次報告にて報告します。

日本語・国際共修科目

江崎 哲也

主に学部留学生を対象として開講されている、国際化推進センターが提供する全学共通教育科目の日本語・国際共修科目について 2023 年度の報告を行う。

1. 開講科目

2023 年度開講の日本語・国際共修科目は以下の通りである。科目名の I は前期、II は後期開講であることを指す。★は 2023 年度新規開講科目を示す。

前期（計 10 科目）

日本語初中級 I A、日本語初中級 I B、日本語中級 I B、日本語中上級 I、日本語上級 I、ビジネス日本語、日本事情 I、Language & Communication across Cultures、グローバルヘルス入門、Health System and Well-being in the World

後期（計 8 科目）

日本語初中級 II A、日本語初中級 II B、日本語中級 II A、日本語中上級 II、日本語上級 II、日本語 LR 日本事情 II、★世界の中の日本 (Japanese Society from an International Perspective)

クラス分けは、前期・後期の履修申告の直前に行われたプレイスメントテストの結果に基づいて行った。レベルは初中級、中級、中上級、上級の 4 レベルとし、ビジネス日本語と日本語 LR は中級以上の学生を対象とした（図 1）。

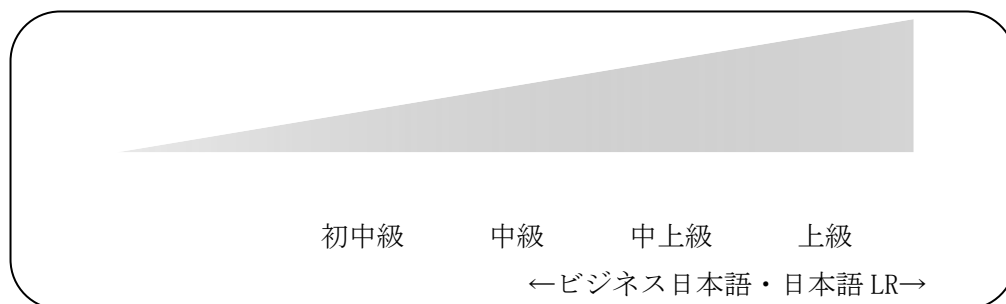


図 1 日本語のレベル

各科目の受講生の学年、身分の内訳は、表 1 の通りである。なお、表中の NNS とは留学生、及び日本語を母語としない（あるいは日本語を第一言語としない）学生を指し、NS とは日本語を母語とする（あるいは日本語を第一言語とする）学生を指す。

表1 2023 年度 日本語・国際共修科目の受講生³

	前期/ 後期	担当		受講生 総数	山梨県 立大学 の学生	梨大の学生							市民開 放授業 受講生	ХНПУ імені Г.С. Сковороди	G-フィロスを利用 して課題を提出す るよう促した課題 の数
						1 年	2 年	3 年	4 年	交換生・ 日研生	院生	研究生・ 教員研修 生等			
初中級ⅠA	前	仲本	NNS	9		1				4	1	3			
初中級ⅡA	後	伊藤	NNS	8			1				7				5
初中級ⅠB	前	江崎	NNS	8		1				7					8
初中級ⅡB	後	江崎	NNS	3							3				5
中級ⅡA	後	井上	NNS	9	2	1	3			3					10
中級ⅠB	前	伊藤	NNS	9		3				6					8
中上級Ⅰ	前	江崎	NNS	16	2	4	2	1		7					8
中上級Ⅱ	後	仲本	NNS	11	2	4		1		4					3
上級Ⅰ	前	江崎	NNS	13	2	4	1	1		5					5
上級Ⅱ	後	江崎	NNS	3		3									6
ビジネス日本語	前	伊藤	NNS	14	2	2	1			6	3				
日本語LR	後	布村	NNS	6	1	2			1	2					2
日本事情Ⅰ	前	伊藤	NNS	17	1	6				9	1				12
			NS	25		24		1							
日本事情Ⅱ	後	伊藤	NNS	4						4					12
			NS	18		16	2								
Language & Communication across Cultures	前	奥村	NNS	17		1				12			4		
			NS	18	3	13	1	1							3
グローバルヘルス入 門	前	宮本	NNS	0											
			NS	42	0	40		1	1						
Health System and Well-being in the World	前	宮本	NNS	2	0	1	1								
			NS	21	0	20	0	1							
Japanese Society from an International Perspective (世界の中の日本)	後	布村	NNS	6						4	2				
			NS	3		3									

表2に日本語・国際共修科目の受講生数の推移を示す。日本語科目（初中級、中級、中上級、上級、ビジネス日本語、日本語LR）の受講生数（延べ人数）は、2014年度から2019年度まで増減を繰り返していたものの、2020年度、2021年度は大幅に減少した。しかし、2022年度は新規開講科目「ビジネス日本語」、「日本語LR」を開講したため、大幅に増加したものの、2023年度は一部科目を非開講としたため、減少した。研究生、大学院生については、日本での就職を意識する学生が少しでも日本語力を高めるべく、積極的に日本語の授業に参加する姿が見られた。

国際共修科目（日本事情、Language & Communication across Cultures、グローバルヘルス入門、Health System and Well-being in the World、世界の中の日本）は、2014年度から2019年度まで増減を繰り返していたものの、2020年度は減少傾向に転じていた。しかし、2021年度は190人、2022年度は169人、2023年度は173人となり、特に日本語を母語とする学生の受講者数が伸びた。これらの科目は授業の性質上、受講生数の上限を定めているが、今後とも共修授業に興味を持たせるよう、働きかけていきたい。

なお、表1の右から2番目は、ウクライナに対する人道的支援の一環として、ХНПУ імені Г.С. Сковороди（ハルキウ国立教育大学、H.S. Skovoroda Kharkiv National Pedagogical University）の学生にLanguage & Communication across Culturesを開放したところ、4名の受講者があったことを表している。また、表1の右端の数字は、各科目において本学のG-フィロス（グローバル共創学習室）の日本語学習サポートサービス、または英語学習サポートサービスを受けた上で課題を提出するよう促した回数である。どの科目もできる限りSA（Student Assistant）とのコミュニケーションを取らせるよう工夫することで、学習意欲の向上等

³ ここでいう受講生は、単位取得希望学生（学部生・交換留学生）以外の、大学院生や研究生なども含めている。

につなげている。

表2 日本語・国際共修科目の受講生数の推移

	2014 年度		2015 年度		2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度		2020 年度		2021 年度		2022 年度		2023 年度	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
日 本 語 科 目 (NNS)	74	39	57	41	62	60	72	56	57	48	72	56	73	59	65	33	88	85	69	40
国 際 共 修 科 目 (NNS)	19	24	19	24	19	23	21	29	58	21	28	33	28	22	34	24	32	44	36	10
国 際 共 修 科 目 (NS)	65	55	33	48	35	49	42	49	51	53	41	40	44	39	102	30	59	34	10	21
合 計	158	118	109	113	116	132	135	134	166	122	141	129	145	120	201	87	179	163	115	71

2. 2023 年度の開講記録

各科目は、以下のような目的・内容で教室活動が行われた（表3参照）。

表3 日本語・国際共修科目の概要

授業タイトル (主な内容)	担 当	主な使用テキスト、参考書	内容				
			読む	書く	聞く	話す	文法
初中級ⅠA (会話と文法)	仲 本	『J. Bridge to Intermediate Japanese』(凡人社)	△	△	◎	◎	○
初中級ⅡA (文法の復習と会話)	伊 藤	『J. Bridge to Intermediate Japanese』(凡人社)	△	○	◎	◎	○
初中級ⅠB (作文)	江 崎	『大学・大学院 留学生の日本語②作文編』(アルク)	△	◎	△	△	○
初中級ⅡB (少し専門的な文章の読み方)	江 崎	『改訂版大学・大学院 留学生の日本語 ①読解編』(アルク)	◎	△	△	△	○
中級ⅡA (読解、意見のまとめ方)	井 上	『中・上級日本語教科書 日本への招待 テキスト』 (東京大学出版会; 第2版)	◎	○	△	○	○
中級ⅠB (場面や相手に沿った適切な話し方)	伊 藤	『日本語上級話者への道ーきちんと伝える技術と表現』 (スリーエーネットワーク)	△	○	◎	◎	○
中上級Ⅰ (会話・聴解・発表)	江 崎	『中上級学習者のための日本語会話』 (スリーエーネットワーク)	△	△	◎	◎	△
中上級Ⅱ (論理的な文章の書き方)	仲 本	・『大学・大学院 留学生の日本語④論文作成編』(アルク)	○	◎	△	△	○

上級Ⅰ (レポート・論文の書き方)	江崎	『論文ワークブック』 (くろしお出版)	△	◎	△	△	○
上級Ⅱ (発表のし方と、新聞記事などの資料の読み方)	江崎	『トピックによる日本語総合演習 上級』、『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集』 (スリーエーネットワーク)	○	○	◎	◎	△
ビジネス日本語 (ビジネス場面の会話、メールなど)	伊藤	『ビジネス日本語：オフィスで使える！マナーも身につく！テキスト1 改訂版』 (日建学院)	○	○	◎	◎	△
日本語 LR (JLPT N1 レベルへの到達を目指した読解演習)	布村	『新完全マスター読解日本語能力試験 N1』 (スリーエーネットワーク)	◎	△	△	△	○
日本事情Ⅰ	伊藤	『日本の風俗起源がよくわかる本』(大和書房)	日本人の学生と一緒に、日本の文化や日本事情を勉強する授業。文化や社会について学びながら、日本語力を伸ばす。テーマに基づくグループ・ディスカッションを行い、各国・地域や家庭の習慣、文化について紹介しよう。 (ⅠとⅡは別内容)				
日本事情Ⅱ	伊藤	『日本の風俗起源がよくわかる本』(大和書房)					
Language & Communication across Cultures	奥村	－(授業内指示、自主作成教材)	This class aims to equip students to understand the role of language and communication across cultures highlighting the importance of intercultural communication and language. In the class consisting of both international and Japanese students, all the interactive activities are conducted in English.				
グローバルヘルス入門	宮本	－(授業内指示、自主作成教材)	「グローバルヘルス」とは世界に広がる「容認できない健康格差」を是正するための様々な取り組みを指し、「健康」という視点で日本語を母語とする学生と一緒に世界の課題を考える。				
Health System and Well-being in the World	宮本	－(授業内指示、自主作成教材)	Purpose of the lecture: 1) Students will be interested in the health systems in the world; 2) Students will be interested in the social well-being in the world; 3) Students will think about diversity of				

			system and how to reduce health disparities.
世界の中の日本 (Japanese Society from an International Perspective)	布村	- (授業内指示、自主作成教材)	This course aims to enable students to understand contemporary Japanese society, including its minute details, by examining social issues from multiple sociological and anthropological perspectives.

*「内容」の項目の記号は、◎：よく勉強する(よく取り上げる/扱う)、○：勉強する(取り上げる/扱う)
△：あまり勉強しない(あまり取り上げない/扱わない) ということを表す。

3. まとめと今後の課題

2023年度の日本語科目の日本語非母語話者の総受講生数は109人であり、前年度に比べて大幅に減少した。これは2023年度は一部科目を非開講としたためであると考えられる。また、国際共修科目（日本事情、Language & Communication across Cultures、グローバルヘルス入門、Health System and Well-being in the World、世界の中の日本）は、日本語非母語話者、日本語母語話者ともに非常に多くの学生が受講した。入学当初から異なる文化やグローバルな問題に興味を持てるよう、これらの科目の履修の重要性を母語話者、非母語話者双方に訴えつづけていきたい。今後も共修型授業を通して、学生の異文化理解力を高めていき、学内の国際化にもつなげていきたい。

日本語科目における「G-フィロス」の利用を2023年度も強く推奨し、課題の一部をG-フィロスで行うような仕組みにした。これにより、日本語の学習時間が十分確保され、SA (Student Assistants) と日本語を母語としない学生との交流も促進されたと思われる。

留学生サポート

1. 留学生支援・相談、文化交流

国際化推進センターでは、留学生の生活・就学に関する相談・指導を行うだけでなく、文化体験・交流や講演会等、留学生にとって有益な行事等を提供することによって、留学生が日本での生活に馴染み、学業に取り組める環境を整えるための支援も行っています。これら留学生支援・相談、文化交流について、国際化推進センター伊藤孝恵教授の年次報告にて、報告します。

留学生支援・相談、文化交流について

伊藤 孝恵

I. 指導・相談

山梨大学における留学生のための相談体制として、国際化推進センターに留学生相談室が設置されているほか、国際化推進センターの各教員がそれぞれオフィス・アワーを設けている。国際化推進センターでは、留学生のみならず、海外留学や国際交流、G-フィロスに関心のある学生や、日本語教育に関する相談で訪れる学生にも対応している。

本稿では、そのうち、2023 年度に留学生相談室で対応した主だった指導・相談、及び国際化推進センターや教学支援部の一部支援行事や交流行事について報告する。

1. 生活、修学、進路・就職相談

年度をまたいだ継続相談のほか、新たに学生本人による相談や、指導教員やグローバル推進課、学生サポート室からの連絡により面談するケースもある。また、全学部留学生に対し、心身の健康状態や、勉学・生活に関するアンケート調査で学部留学生の大学生活を確認し、詳しい状況を把握した方がよいと思われる場合は、留学生相談室で面談を行い、必要に応じて医療機関や学生サポート室を紹介した。学生サポート室とは、学生本人の了承を得た上で情報・状況を共有し、連携して学生の支援にあたった。研究室が合わない相談に訪れた大学院生に関しては、メンタル的にも追い詰められていたため、学生サポート室でのカウンセリングを勧め、学科の教員と情報共有しながら、研究室の移動に至った。ほかにも、留年となった留学生の在留資格の延長手続きに伴う相談や、気分が落ち込みやる気が出ない、もの忘れがひどく課題の提出期限などが守れない、人間関係でストレスを感じる、専攻が自分に合っていないと感じる、転学したいなど様々な悩みが聞かれた。就職に関する相談も少なくなく、時には一緒に自己分析ながら、個々に合った就職先を見つける手助けをした。留学生、特に理系の学生は、自分の専門性を活かした就職を希望する傾向が強いが、自分の特性や働き方、将来のキャリアビジョンなど、専門性以外にも多角的な視点をもって就職について考えられるよう、指導を心がけた。

2. 学部新入生個別面談

毎年5月の大型連休明けから、学部新入留学生を対象に30分～1時間程度の個人面談を実施している。留学生に留学生相談室に来てもらい、対面で入学後の生活の様子や気持ちなどを聞いた。

毎年この時期に行っている個別面談では、留学生相談室があることを新入生に知ってもらい、今後利用しやすいよう、相談担当教員との顔合わせの意図がある。また、入学当初の不安な気持ちや知りたいこと、困っていることは個々人によって異なるため、誰に尋ねたらいいかわからないことも、個別に話す機会を設けることで、問題や不安を解消したり適切な窓口を紹介したりすることが可能となっている。甲府市の条例で加入が義務化されている自転車の任意保険加入についても、新学期の留学生ガイダンスで案内しているが、個別面談で加入の有無を確認・指導を行っている。また、低学年のうちから、卒業後のキャリアを見据えた大学生活を送ることを考えてもらい、国際化推進センターでも低学年からキャリア教育を行えるよう、個人面談では卒業後の進路について

も話し合った。勉強については、学部留学生が在籍する工学部、及び生命環境学部の一年生の必修科目に、数学や物理、化学といった基礎科目や基礎ゼミがあるが、留学生の中には母国で習ってこなかった、苦手だという者が毎年いる。この個人面談で、勉強の仕方を話し合い、学内の相談リソースを案内するなどしている。

3. 学部生への学修・健康チェック

2023 年度も全学部留学生に対する学修と健康に関するアンケート調査を行った。新入時だけでなく、学年が上がっても、それぞれのステージならではの悩みや不安があるため、数年前から毎年行っている。調査は、2023 年度も Google Forms で行い、体調不良や、気持ちの落ち込みや悩みがある、複数の科目で単位を落としているなど気になる回答を見出し、個別面談を行った。

4. 留学生ガイダンス・生活ガイダンス

新入留学生を対象に、2023 年度は 4 月 4 日にガイダンスを行い、同日に、前期の日本語・国際共修科目の履修を希望するすべての留学生を対象に日本語プレイスメント・テストを実施した。後期は、9 月 15 日に日本語プレイスメント・テストを実施した。この時点で後期入学者がほとんど入国していない状態だったこと、そして後期入学者が国際交流会館または国際交流会館 ANNEX に入居する予定だったことから、後期入学者に対する生活ガイダンスを、国際交流会館及び ANNEX のオリエンテーションで行った。

4 月の新入生対象の留学生ガイダンスでは、国際化推進センター、及び教学支援部・グローバル推進課の教職員の紹介からはじまり、学年暦、本学で開講されている日本語・国際共修科目、日本語 Intensive Course、日本語補講の説明のほか、留学生相談室や G-フィロスの紹介を行った。また、生活ガイダンスとして、新型コロナウイルス感染予防やゴミの分別、交通安全、災害への備えなどの説明を行った。プレイスメント・テストは前期、後期ともオンラインで実施した。

II . 支援

1. 留学生チューター制度 / 留学生サポーター制度

山梨大学では、入学後 1 年目の留学生に対する支援制度として、チューター制度、サポーター制度、及び交流パートナー制度が設けられている。

留学生チューター制度は、入学後 1 年目の研究生、及び交換留学生に対して、留学生と同研究室の学生や受け入れ教員の推薦する学生が、一年間チューターとして勉学や生活上のサポートをするものである。2023 年度前期は 23 名、後期は 16 名がチューターとして選出され、前期、後期ともオンラインで複数回説明会を開いて、謝金手続きに関する説明や活動方法、活動内容、活動する際の留意点などを、資料を基に説明した。

留学生サポーター制度は、活動時間を 10 時間以内と限定した上で、学生サポーターとなった学生に、大学院留学生の入学当初の市役所や履修等の諸手続きの補助を行ってもらおうというものである。市役所や郵便局等での手続きは、煩瑣でサポートする側の負担も大きい。そのため、期間限定であるとはいえ、入学当初の諸手続きをサポートしてくれる学生に謝金を支払うこの「留学生サポーター制度」は、大学側の留学生支援の一環として 2019 年度から導入している。2023 年度前期 1 名、後期 23 名がサポーターとして、市役所での住民登録や印鑑作成、銀行口座の開設、携帯電話の購入などにおいてサポートをしてくれた。

また、成績不振や勉学に不安のある学部 2 年次以上の留学生に対しては、クラス担任の教員に面談してもらった後、同学年・同学科の学生や先輩学生をチューターとして推薦してもらい、当該留学生にとって難しい授業の勉強や課題作成の補助などをしてもらっている。この制度は 2014 年度から導入し、2023 度は前期に 2 名、後期に 1 名の留学生がこの制度を利用して、クラスメイトや同学科の先輩学生から、苦手科目を中心に学習補助を受けた。チューターによる学習支援の対象となった 2 年次以上の留学生とそのチューターとは、留学生相談室で話し合いながら、その留学生に合った支援と一緒に考えた。同国の先輩留学生がチューターとなり、母国語で学習

支援を行うことにより学習効果を上げただけでなく、当該学生の学習上の困難点をチューターが聞き出し、クラス担任の教員に相談するなどの連携支援にもつながった。

また、いずれのチューター、サポーターにも、チューターやサポーターとなった学生自身が活動の中での問題等を抱え込まないよう、CNS のコミュニティにおいて、気軽に相談できる窓口として留学生相談室を案内している。

2. 学部一年次外国人留学生交流パートナー制度

学部新入留学生に対する支援として、交流パートナー制度を導入している。

学部生にとって、同学年・同学科のクラスメイトの友人を作るとは、授業課題や試験対策などで助け合うだけでなく、大学生活上の様々な情報交換や交流の機会を得ることにもなる。そのため、これまでの大学院生によるチューター制度から、2014 年度は同学年・同学科の日本人学生をチューターとする制度に、2015 年度からは謝金を伴わないボランティア活動として交流パートナー制度に改めた。交流パートナーの日本人学生は、要件を満たせば、自発的教養科目（ボランティア活動）の 1～2 単位を取得できる。同じクラスメイトの日本人学生が、留学生の交流パートナーとなり、留学生のクラス内での仲間づくり・居場所づくり、及び学生間の協働学習促進の一助を担っている。

2023 年度は、学部 1 年生の留学生 12 名と日本人のクラスメイト 25 名が参加した。前期に説明会を行った後、2 回の交流会、並びにバス旅行を企画・実施した。バス旅行は 12 月 2 日に行われ、ほうとう作りや西湖のネイチャーガイド散策などを共に体験して、親睦を深めた。



3. 国際交流会館/ ANNEX / 甲斐路分館

2023 年度は 5 月 16 日に国際交流会館、19 日に国際交流会館 ANNEX のオリエンテーションを、国際交流会館 2 階の多目的ホールにて開いた。オリエンテーションでは、会館チューターの学生が、日本語と英語で、寮費や光熱費の支払い方法や共同キッチンや洗濯室、ロビーの使い方、ごみの出し方、非常時の避難場所などについて説明した。また、大学職員からは、会館内の WiFi を皆が安全にスムーズに使用できるよう、インターネット使用における注意喚起を行った。

後期は、新入生の入寮が落ち着いた 10 月 12 日にオリエンテーションを開いた。新入生に対しては入寮した時点で、説明会に先立ち、当面必要な案内を、寮の担当職員や会館チューターが個別に説明した。また、4 月の新入留学生向けに行った生活ガイダンスを、後期入学者・入寮者を対象に日本語と英語で行った。生活ガイダンスでは、新型コロナウイルス感染予防策のほか、主に自転車の交通ルールと自転車の保険への加入、近所トラブルとなる生活騒音やゴミの出し方、災害への備えなどについて説明した。寮の担当職員からは、前期と同様に、インターネット使用における注意喚起を行った。

4. 留学生のための防犯講話

6 月 20 日、甲府キャンパスにおいて、国際化推進センター・グローバル推進課主催「留学生のための防犯講話」を開催し、留学生ら約 40 名が参加した。

これは、留学生が事件・事故・犯罪等に巻き込まれることなく安全に学生生活を送れるように、甲府警察署のご協力をいただき、例年開催しているもので、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で3年ぶりの対面による開催となった。

同署より3名に来ていただき、交通事故やトラブルにあった時の対応、自転車の交通規則、危険ドラッグ、大学付近の交番や警察署の場所、連絡方法などを、英語表記のスライドを用い、英訳を交えながら丁寧に説明いただいた。治安の良い国というイメージの日本であっても、犯罪に巻き込まれないように十分に気をつけてもらいたい。



Ⅲ．文化交流

1. 実地見学旅行

9月12、13日の一泊二日で、35名の留学生が、山梨県および静岡県の観光地を巡る旅行に参加した。実地見学旅行は、留学生の日本文化理解を目的に毎年行われていたが、新型コロナウイルスの流行により2020年度以降中止となっていた。2023年度は4年ぶりに再開することができた。

旅行の1日目は、「リニア見学センター」でリニアモーターカーの試運転の見学をし、「伊豆フルーツパーク」での昼食、「駿府匠宿」ではハンカチの藍染体験を行い、世界文化遺産「三保の松原」を巡った。

2日目は、日本平夢テラスからロープウェイで「久能山東照宮」に参拝し、島田市にある「KADODE00IGAWA」で緑茶B.I.Y体験を行った。

普段の生活では味わえない日本の風景や文化に触れられた二日間になったことと思う。また、この旅行には、4名の日本人学生が訪問地を紹介するしおりを事前に作成し、そのうち3名が留学生との交流のために旅行に参加した。旅行を通して、日本人学生との交流や留学生同士の新たな交流も生まれたことと思う。



2. ホームステイ/ホームビジット、岩窪自治会との地域餅つき会

実施時期に、インフルエンザやコロナウイルスが流行していたため、2023 年度も中止となった。

3. 留学生の華道体験

「留学生の華道体験」は、本学の華道部の協力を得て、甲府キャンパスの大学祭に合わせて 11 月 3 日に行われた。「自分の感性を生かして活かしてほしい」という華道部顧問の跡部由喜先生のお話を受け、参加者たちがそれぞれ思うように活かした作品を、一人一人先生に見ていただき、魅せるポイントを教えていただいた。同じ花材でも一つ一つ表情が異なる作品は、大学祭の開催中展示され、来場者に見てもらった。



2. 山梨留学生就職促進プログラム（通称：IRCS）

本学は令和2年度から文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」の一環として「山梨留学生就職促進プログラム」を実施しています。以下は令和5年度におけるプログラムの活動報告です。

山梨留学生就職促進プログラム

― 活動の概要と令和5年度の取組状況 ―

伊藤 孝恵・布村 猛

本章においては、令和5年度の活動報告をするにあたり、プログラム全体の概要、目的を概観する。そのうえで、令和5年度における活動に焦点を当て、活動内容、及び成果・課題について述べる。

はじめに

本報告は大きく3つで構成されている。

はじめに、留学生就職促進教育認定制度にて令和4年度より認定を受けた「山梨留学生就職促進プログラム」の概要について述べる。次いで、本プログラムの3本の柱である「日本語教育」「キャリア教育」「企業理解教育」について、令和5年度の活動内容を報告する。最後に、活動の総括と今後の課題について記す。

1. 山梨留学生就職促進プログラムの概要

1.1 背景と目的

本学は、『地域の中核・世界の人材』を旗標に、第三期中期計画（平成28年度～令和3年度）に従って、海外、特にアジアから多数の留学生を受け入れ、エネルギーや医工学分野の融合研究を積極的に推進してきた。令和元年度からはダブルディグリー制度を活用した、AI、IoT、ロボティクス分野の充実が顕著である。その一方で、地域に目を向けると、基幹産業であるロボティクスや機械電子工業は深刻な人手不足に苛まれている。このような地域のニーズに応えるべく、本学では、地域人材養成センター（旧 地域未来創造センター）が平成27年に文部科学省から地方創生推進事業(COC+)を受託し、『地域の中核』を担う人材を定着させるキャリア教育カリキュラムを、本学並びに県内10大学向けに整備し、県内自治体や企業との密接な連携を確立してきた。

これに加えて、本学国際化推進センターは、留学生向けに充実した日本語教育、及び日本事情教育を提供してきた。さらに、平成30年度には留学生指導教員がキャリアコンサルタントの国家資格を取得し、個別の就職面談やガイダンス等を実施することにより、令和元年度には卒業・修了留学生の国内就職率45.7%を達成している。そこで、両センターが提携し、山梨県・甲府市・県内経済団体と産学官三位一体のコンソーシアムを構成することにより、独自の「イノベーション・研究駆動留学生就職促進プログラム」を提案し、留学生人材による地域産業の問題解決を図ると同時に、キャリア教育の体系化による国内就職率のさらなる向上と他大学への波及効果を狙うことを目的とする。

1.2 プログラムの中心となる2つのトラック

本節では、プログラムの特徴である2つのトラックについて、その活動の内容に触れながら紹介をする。

本プログラムの最大の特長は、プログラム参加時点での留学生の日本語力に応じた2つのトラック（「イノベーション駆動トラック」「研究駆動トラック」）を有していることにある。

「イノベーション駆動トラック」は、日本語能力試験N2相当以上の日本語力をもつ留学生を対象としている。留学生が自身の専門性を高めながら、自己理解や仕事理解を深め、日本語力やビジネスマナー、就職活動スキルを身につけることにより、自分が活躍できる場を見つけ、それを獲得できる力を養う。

一方、「研究駆動トラック」は、日本語能力試験N2、ないしN3相当の日本語力を身につけることに注力しながら、企業との共同研究の中で日本の企業文化に触れながら、日本において自身の専門性を活かし活躍できる場を見つけ、それを獲得できる力を養う。

いずれのトラックも、県内企業を理解・交流する機会を設けることで、地域に根ざす高度人材の輩出をも目指し、日本での留学生の就職促進を図る。

1.3 プログラムを支える3本の柱

次に教育における3本の柱である「日本語教育」「キャリア教育」「企業理解教育」について述べる。

1.3.1 日本語教育

まず、「日本語教育」について本学は、第三期中期計画に従って、アジアをはじめとする諸外国から優秀な留学生の受入れ拡大に取り組んできた。それに合わせて、英語対応コースの漸増も含め、カリキュラムのグローバル化も進めてきた。このような環境整備のなか、留学生のうち実に6割以上は大学院生が占め、その中には、学位取得後にも日本に留まって働くことを希望する者も現れている。

しかしながら、大学院留学生の7割以上は、日本企業での就職に求められる日本語力に到達しておらず、特に英語コースの大学院生の場合は、大学院修了時点においても日本語力をほとんど有していないという課題がある。

一方、学部生に目を向けると、就学前から日常生活に不自由のない程度の日本語能力は有しているものの、修学後に部活動やインターシップに参加する機会が圧倒的に少なく、日本のコミュニティやビジネスにつながるレベルへのスキルアップには至っていないという課題がある。

これらの課題を解決するために、まず、英語で学位取得を目指す大学院生については、入学時に日本語能力試験N4レベルに到達できるように、渡日前に各自で日本語学習を進めるよう、適切なオンライン教材の提案と、定期的なオンラインミーティングを活用し日本語指導を提供した。また、大学院入学後は、日本語学習の重要性を周知し、各自で学習を継続するよう促した。さらに、希望者には正規カリキュラムの枠外で、日本語学習の支援を提供し、修了時にはN3からN2レベルの日本語運用能力を目指すよう指導した。一方、入学時に既にN2相当程度の日本語力を備えている学生には、N1対策やBJT対策、ビジネス日本語の教育機会を提供するとともに、日本のビジネスマナーも体得する機会を設ける。

以上が「日本語教育」の概要である。

1.3.2 キャリア教育

次にキャリア教育についてであるが、国際化推進センターでは、キャリアコンサルタントの国家資格を有する日本語教員が、個別面談等を通してキャリア指導を行うとともに、長年、本学のキャリアセンターと共同で就職ガイダンスを開催してきたほか、就職相談会や就職セミナー等も開くなど、留学生を対象としたキャリア教育を行ってきた。しかし、留学生が企業関係者と接する機会がなかったため、日本の企業文化理解や日本企業で働くイメージ作りが十分でなかったという課題があった。

そこで、イノベーション駆動トラックの留学生に向けては、自己分析や業界研究、企業研究などのセミナーやワークショップを行い、エントリーシート作成等につなげるほか、筆記試験対策や面接対策といった実践対策も講じ、体系的なキャリア教育を提供する。

研究駆動トラックでは、メンターの役割を担う共同研究者を割り当て、その交流を通してキャリアについて真剣に考えられるような機会を提供する。以上が「キャリア教育」の概要である。

1.3.3 企業理解教育

3つ目に「企業理解教育」についてであるが、日本企業で働く上で、日本の企業文化や日本人の価値観、日本の慣習に対する理解が肝要であると考え、そのため、本学の共通教育科目である「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」を本プログラムに取り込み、日本の慣習や日本人の考え方を知るとともに、留学生からも母文化を発信し、日本人と留学生の双方が理解し合うことを目指す。また、企業文化理解のためには、コンソーシアムの企業・団体から講師を派遣してもらい、日本の企業文化に関するセミナーを開催し、日本の企業文化や県内企業に対する理解を図る。

留学生と企業との出会いの場という意味においては、インターンシップや企業見学会は、最たるものといえる。コンソーシアム加入企業からの協力を得て、インターンシップや共同研究、県内企業の見学会を実施する。

また、本学の地域人材養成センター（旧 地域未来創造センター）の「未来計画研究社」が主催する「Miraiプロジェクト」には、参加企業・団体と学生が協働で取り組むプロジェクト型の授業科目「フューチャーサーチ」がある。

各プロジェクトへの取り組みを通じて、学生は地域の課題を知るとともに、課題解決力やチームワーク力、発表力を培い、自分が将来働くイメージを形成していくことを目指している。しかし、これまでは本学の留学生の参加はなかった。

そこで、本プログラムにおいては、文科省委託事業期間に外部評価委員より受けたアドバイスに基づき、「フューチャーサーチ」を令和5年度からプロジェクト型のインターンシップと位置づけた。そして、「フューチャーサーチ」への参加も本プログラムで積極的に勧め、地域人材養成センターと連携して、留学生の指導・支援にあたる。これにより、留学生が企業とともに主体的に地域のプロジェクトに関わることで、企業関係者との交流の機会がもてるだけでなく、県内の観光や産業への理解・関心、ひいては県内企業への就職へとつながることが期待できる。以上が「企業理解教育」の概要である。

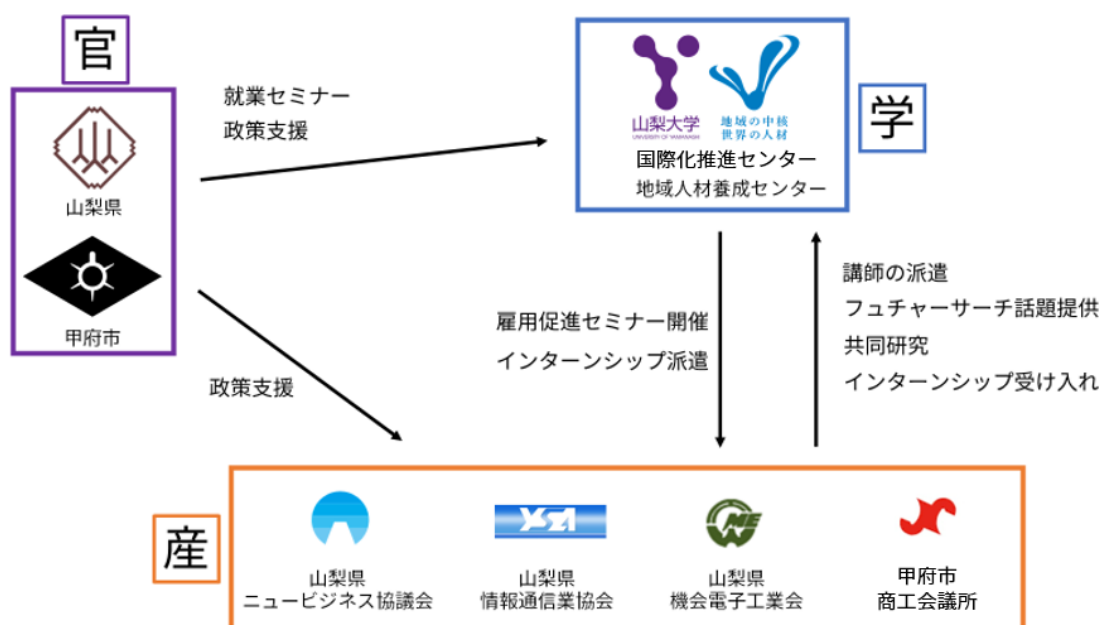


図1 「山梨留学生就職促進プログラム」実施体制

1.4. プログラムポイント制度

本プログラムが留学生就職促進認定制度に認可されるにあたり、新たな導入として「ポイント制度」がある。

これにより、留学生の受講状況の把握と修了証の発行という、プログラム側の管理が容易になったことに加え、留学生自身が自分の就職に向けた準備状況を可視化し、計画しやすくなった。また、採用側の企業も、留

学生が本プログラムでどのようなことを学んできたのかの把握がより容易となった。本プログラム開始当初は、「山梨留学生就職促進プログラム」に参加した留学生が、今までの留学生とどのように違うのか、イメージを把握することが難しい、との声が企業から聞かれたが、「ポイント制」の導入は、この問題の解決に寄与するものである。

1.5. 本取組みと就職率向上との関係

昨年度の報告では、就職率向上と本プログラムとの関連について、大学内外のリソースの活用と連携の効果が大きかったと考察した。具体的には、「日本語教育」「キャリア教育」「企業理解教育」を3本の柱として、コンソーシアム参画企業・団体、大学外の留学生就職支援機関からの講師派遣や協力を通して、各種講座、企業見学会、インターンシップを実現し、留学生に対し体系的かつ計画的な就職準備教育を行ったことを報告した。さらに、英語コースの大学院生に対しても、渡日前からの集中的な日本語教育と企業との共同研究を通じたキャリア教育・企業理解教育を提供し、日本での就職に結びつけられたことを述べた。加えて、産学官連携体制の構築により、留学生が日本の産業界で体験的に学ぶ機会が増え、大学内外から就職に向けた教育を体系的に受けられる体制がつくられたことで、就職率の向上に繋がったと考察した。

特に、令和5年度の成果として、企業と留学生が共同して一つの課題に取り組む「課題解決型インターンシップの推進」が効果的であったことが挙げられる。これは、特に企業側にとって重要な経験を提供するものである。留学生とのコミュニケーションを不安に感じる企業が多い中で、課題解決型インターンを通じて、様々な方法で試行錯誤をしながら、その中で、大きな支障もなく、コミュニケーションを取りながらタスクを遂行することができるという経験を得られることは重要である。業務遂行型のインターンであると多くの社員に係るケースも有り、一歩踏み出せない企業もある。その中で、課題解決型という実際の業務とは違う枠組みの中に設置されたインターンシップの形式は企業にとっても受け入れのハードルが低い。今後は、このような課題解決型インターンシップをさらに推進し、企業と留学生双方にとって有益な機会を提供していく予定である。

1.6. コンソーシアム参画団体の役割

昨年度の報告では、山梨大学内の各組織が計画通りにそれぞれの役割を遂行したことを述べた。国際企画課（現在はグローバル推進課に名称変更）には、「山梨留学生就職促進プログラム」のための専門職員を1名配置し、マネジメント面での中心的な役割を果たしたことを報告した。国際交流センター（現在は国際化推進センターに名称変更）は、特任教員一名を専任教員として継続雇用し、日本語教育、キャリア教育、企業文化理解教育の3本柱の教育プログラムを実施したことを述べた。また、産業界からは、一般社団法人山梨県ニュービジネス協議会、一般社団法人山梨県情報通信業協会、一般社団法人山梨県機械電子工業会、山梨県中小企業団体中央会の協力があつたことを報告した。山梨県庁と甲府市役所も、計画通り企業に対して雇用や地域コミュニティ形成に関する各種政策立案やサポートを行ったことを述べた。

令和5年度は、これまでの取り組みを継続しつつ、いくつかの変更点と新たな成果があつた。グローバル推進課では、委託事業の終了に伴い、専門職員を配置することができなくなったため、課の一般職員一名が留学生就職促進プログラムの事務的な業務を受け持つことになった。また、産業界におけるコンソーシアムについては、山梨県中小企業団体中央会がコンソーシアムを抜け、甲府市商工会議所が新たに加わった。

新たな成果として、コンソーシアム参画団体である「山梨ニュービジネス協議会」より、留学生の支援金として年間50万円を支援いただけるようになった。これを活用して、県内での就職に積極的に取り組む留学生を中心に就職活動支援を行った。

このように、一部の組織や体制に変更はあつたものの、山梨大学と産業界、自治体が協力し、留学生の就職支援に取り組む体制は維持されている。さらに、新たな支援金の供託により、留学生の就職支援の取り組みがより一層強化された。今後も、これらの連携を深めながら、留学生の日本国内での就職率向上を目指していく予

定である。

1.7. プログラム実施体制の強化

昨年度の報告では、グローバル推進課の職員1名と国際化推進センターの教員2名がコーディネーターとして中心的な役割を果たしたことを述べた。グローバル推進課の職員は、各種セミナー実施のための調整、広報活動、インターンシップ先開拓などを担当した。国際化推進センター教員は、「イノベーション駆動トラック」と「研究駆動トラック」に分かれ、それぞれキャリア教育プログラムの設計・実施、日本語教育コースの運営などを行った。この体制については令和5年度も継続した。

これに加え、必要に応じて学内他部署との連携を強化した。課題解決型インターンシップにおいては、「山梨 Mirai プロジェクト」にて連携をしている地域人材養成センターだけでなく、令和5年度よりアントレプレナーシップ教育担当教員として本学で雇用した教員と連携をしながら、課題解決型インターンシップに取り組む可能性のある留学生を中心に地域課題の解決に取り組むうえでの姿勢を指導した。また、キャリアセンターと連携し、現地学生を対象とした合同企業説明会にも国際化推進センター職員のサポートのもと参加をすることができるようにした。

2. 教育プログラムに関する令和5年度実施状況

2.1. 日本語教育

初中級から上級までの4レベルの日本語の学部科目を各年度13～15科目提供した。学部科目で学んだ基礎的かつ汎用性の高い日本語は、インターンシップ先における社員との交流やプレゼン、エントリーシートや採用面接に活かすことができた。また、「ビジネス日本語」も令和4年度から学部開講科目とし、令和5年度には15名の参加があった。JLPT N1合格の後のビジネス日本語の運用力育成のため、BJT対策講座を2回開講し、延べ32名の参加があった。BJT実施団体である、公益財団法人日本漢字能力検定協会の担当者から直接説明を受けた後、実際に問題を解き、ビジネス語彙や表現等の使われ方を体験した。さらに、コンソーシアム参画団体、企業よりマナー講師を派遣していただき、年に4回、「ビジネスマナー講座」を開き、延べ53名の参加があった。入退室の仕方や椅子の座り方、ビジネススーツの着こなし方などを、体験的に学べる貴重な機会となった。

「JLPT対策講座」について昨年度の報告では、令和3年度以降、研究駆動トラックの学生を中心にJLPT対策講座を本格的に提供し、一定数の留学生が参加したことを述べた。また、既にN2レベル相当の日本語力を有する学生に対しては、N1レベルへのスキルアップやビジネス場面における表現力・運用力の向上を目指し、N1対策講座を開講したことを報告した。

令和6年度は、これまでのJLPT対策講座の取り組みを継続しつつ、さらなる充実を図っている。令和5年度もJLPT N2・N3・N4対策講座については、R4年度と同様のペースで開講し、年間で、N4対策は12名、N3対策8名、N2対策3名の学生が8割以上の出席率でJLPT対策講座を受講した。また、N1対策のためには、日本語L&Rという授業を活用し、こちらは6名の学生が受講した。

2.2. キャリア教育

留学生が日本で働く将来像を思い描き、その実現に向けた準備を行えるよう、留学生の状況に合わせた教育・支援が必要である。日本人学生と異なり、日本にロールモデルとなる社会人が身近に少ない留学生にとって、日本で働くイメージや、5年後、10年後の自分のキャリアビジョンが描きにくい。また、日本の企業文化や就職市場の動向、就職活動のノウハウなどの情報不足、理解不足も相まって、日本での就職活動が思うように進まないことが多い。そのため、留学生の自己理解や仕事理解を深める教育とともに、日本の就職活動に必要な知識やノウハウの提供も必要となる。

令和5年度、イノベーション駆動トラックでは、新年度当初に就職ガイダンスを行い、プログラムの説明を行ったほか、日本で就職することや自身の「キャリア」について考えた。また、前期に「キャリアデザイン演習」を3回に分けて開催し、その中で、既に日本企業で働いている外国籍社員をロールモデルとして招き、体験談も語ってもらうなどした。ほかに、自分のキャリアの方向性やチームでの自分の役割について考えるワークを取り入れたり、キャリアプランを描く活動なども行い、延べ43名が参加した。

後期には、自己理解や業界・企業研究のためのガイダンスやワークショップを行い、41名が参加した。このような演習、ガイダンス、ワークショップは、山梨県の委託事業による外部講師や、留学生の求人、就職支援を主とする一般社団法人のキャリアコンサルタントが講師を務め、留学生の就職事情や特性に即した情報提供や指導がなされた。また、非言語問題、言語問題の2回に分けてSPI対策講座を開き、延べ20名が参加した。面接対策は、各々の採用面接段階に応じて、個別に指導を行った。

昨年度の報告では、研究駆動トラックの学生に対するキャリア教育が主に企業との共同研究を通して行われていたが、学生が日本の就職活動について学び、自身のキャリアを検討する機会を大学でも提供する必要性が明らかになったことを述べた。そこで令和4年度に「キャリアインベントリー」という授業外講座を実施し、学生が受動的ではなく能動的な姿勢で就職活動に臨めるようになったことを報告した。令和5年度は、「キャリアインベントリー」の内容をさらに充実させ、学生の日本企業への就職を支援するための取り組みを強化している。具体的には、日本の就職活動の流れや対策についてのガイダンスに加え、自己分析や企業研究のワークショップを担当教員開催し、学生が自身の強みや適性を理解し、志望する企業像を明確にできるようサポートしている。また、個人情報排除した履歴書として、キャリアポートフォリオの作成を導入し、学生のキャリアプランを整理させると同時に、学生に対して企業がよりアクセスしやすくなるような体制を整備した。

2.3. 企業理解教育

本プログラムにおける主な企業理解教育として、「企業文化セミナー」「企業見学会」「インターンシップ」「フューチャーサーチ」「企業との共同研究」がある。学部開講科目である「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」は、受講していないプログラム生には受講を勧めた。

「企業文化セミナー」は2回開催し、延べ20名の参加があった。2社とも山梨県に本社やオフィスを構える企業で、日本の企業風土や外国籍社員の働く様子などを企業から直接知り得る機会となった。

「企業見学会」は、甲府市をはじめコンソーシアム参画団体からの協力を得て、留学生の専攻に合わせて複数の業界の企業5社を訪問し、延べ18名が参加した。研究駆動トラックの学生も英語で積極的に質問する姿も見られ、実際に企業の方から話を聞き、働く現場を見せていただくことで、より仕事内容の理解や働くイメージができたものと思われる。

「インターンシップ」は、大学のキャリアセンター登録企業には、2名が参加したほか、プロジェクト型のインターンシップとして「フューチャーサーチ」に8名が参加した。「フューチャーサーチ」には、年に2回の進捗報告会と最終成果報告会としてのフューチャーEVOがあるが、留学生も日本人学生と同様に、活動内容をスライドにまとめ、発表を行っていた。表1は本プログラムの留学生が参加した「フューチャーサーチ」のプロジェクトである。企業・団体や県内他大学の学生との協働活動を通じて、留学生のコミュニケーションの場も広がり、自発的発信の機会を得ている。同世代の日本人と一緒にプロジェクトに取り組む経験は、将来日本で働く上で必要不可欠なものである。

表1 本プログラムの留学生在が参加した「フューチャーサーチ」のプロジェクト

プロジェクト名	企業・団体名
実践！親しみやすく楽しいプログラミング学習会	一般社団法人アイやまなし人材育成協会
もっと楽しくもっとおしゃれに着物をコーディネートしよう（着物再発見）	株式会社オフィスパドゥ／五齊南有限
山梨県専門ユーチューブチャンネル 山梨に行こう！	CII 株式会社
地域と連携した楽しい「みんなの森」を作るプロジェクト	おらんとうの森
小さな直売所をつくろう	YUI ホールディングス株式会社
スタートアップ事業～offer 型 就活サイトの企画を立ち上げ	株式会社 E テラス

「企業理解演習」について、昨年度の報告では研究駆動トラックの学生を対象に実施したことを述べた。従来、研究駆動の学生は企業との共同研究を通じて就職することが多く、一般的な就職活動とは異なるルートで就職するケースが多いと考えられていた。しかし、令和3年度には一般的な就職活動に挑戦し内定を獲得した留学生在が数名いたことから、理系大学院に通う留学生的のための就職サイトを紹介するなど、英語でも効率的な就職活動ができるような実践的な指導を行った。これにより、研究駆動の学生が指導教員からの紹介を待つという受動的な就職活動ではなく、主体性を持った能動的な就職活動に取り組みやすくなった。

令和5年度は、この取り組みをさらに発展させ、研究駆動トラックの学生に対して、一般的な就職活動に必要なスキルの習得と情報提供を強化した。具体的には、日本語と英語の両言語で履歴書や職務経歴書の作成方法、面接対策、業界研究の方法などを指導し、学生が自信を持って就職活動に臨めるようサポートした。また、企業との共同研究を通じた就職を希望する学生に対しても、企業とのコミュニケーションや交渉のスキルを身につけるための研修を実施している。これらの支援は、学生によってニーズや課題が異なることから、ワークショップのように一斉に学生を集めて実施するのではなく、学生と個別面談のなかで実施をしている。

3. プログラム総括と今後の課題

令和5年度の山梨留学生就職促進プログラムは、「日本語教育」「キャリア教育」「企業理解教育」の3本柱で実施された。日本語教育では、初中級から上級までの日本語科目に加え、ビジネス日本語やBJT対策講座、ビジネスマナー講座を開講し、実践的な日本語運用能力の向上を図った。キャリア教育では、留学生的の状況に合わせたガイダンスやワークショップを実施し、日本での就職に必要な知識やスキルを身につける機会を提供した。企業理解教育では、企業文化セミナーや企業見学会、インターンシップを通じて、留学生在が日本の企業文化や仕事内容への理解を深めることができた。

これらの取り組みにより、留学生的の就職に向けた準備が着実に進んでいる。しかし、プログラムの真の目的は、留学生的の就職だけでなく、地域への定着を促進することにある。留学生在が就職後、地域に馴染んでいくためには、自身が安心して所属できるコミュニティの提供が不可欠である。馴染もうとするコミュニティとある程度対等な立場でコミュニケーションを取ることができるコミュニティに所属していないと、地域への定着は難しい。

そこで、留学生在が中心となる企業コミュニティの形成を支援することが重要である。具体的には、留学生的の起業を支援し、県内でビジネスを始めていくという形での就職も後押しする必要がある。そのためには、地域に残る留学生的の絶対数を増やしていくことが求められる。大学としては、留学生的の起業支援や卒業後の継続的な日本語教育・交流イベントの提供など、長期的な視点に立った支援が求められる。

加えて、大学に来る留学生だけでなく、海外とつながりのある地域の市民との交流の機会も設けるべきである。大学と地域が一体となって、多文化共生の地域コミュニティを形成していくことが肝要である。留学生在が卒業した後も、大学が彼らにとってのコミュニティであり続けるために、日本語教育や交流イベントを継続的に提供していく必要がある。卒業生との絆を大切に、大学を核とした多文化共生の輪を広げていくことが、留学生的の地

域定着を促進するうえで重要な鍵を握っている。

今後は、これまで構築してきた産官学連携の枠組みをさらに発展させ、地域全体で留学生の受け入れ、就職、定着を支援する体制を整備していくことが求められる。大学、自治体、企業が一丸となって取り組むことで、山梨県における多文化共生社会の実現に向けて大きく前進することができるだろう。留学生の力を地域の発展に活かしていくという観点から、山梨留学生就職促進プログラムを進化させていく必要がある。留学生の就職を支援するだけでなく、彼らが地域に根ざし、活躍し続けられる環境を整備していくことが、プログラムの究極的な目標である。

3. その他の活動

(1) 学長主催山梨大学外国人留学生懇談会の開催

2023年12月14日（木）に学長主催外国人留学生懇談会を実施しました。この懇談会は、留学生（外国人研究者も含む）の皆さんとそのご家族、いつも皆さんのお世話をしてくださる方々、大学の教職員が交流する機会をつくり、お互いの理解を、より深めるために開催するものです。大学関係者だけでなく、甲府市及び中央市の市長、職員の方々、日頃お世話になっている地域の方々をお招きし、交流を深めました。懇談会では留学生によるスピーチや母国の歌の披露があり、和やかな雰囲気での開催となりました。



IV. 国際化教育

国際的な環境で勉強できるキャンパスの整備に向け、国際化推進センターでは「G-フィロス（グローバル共創学習室）」を中心に、日本人学生と外国人留学生が共に学び、異文化理解・交流を行う機会を数多く設けています。

G-フィロス

グローバル共創学習室『G-フィロス』とは、国際的なコミュニケーションを育成する場として、異文化理解や語学学習を通じ、学生間で互いに学び合う学習環境のことです。日常的には、英語に限らず語学の勉強を学生同士でお互いにサポートするようなサービスを提供し、それ以外にも異文化交流イベントを開催するなどして、学生の学び合う環境を整えています。

1. G-フィロス（グローバル共創学習室）と英語学習・留学サポート

— SA(Student Assistants)による語学サポート・異文化理解と

アドバイザーによる英語学習・留学サポート —

江崎 哲也

1. はじめに

本学では「山梨大学グローバル化に関する基本方針」に基づき、従前の留学生センターの役割を 2014 年度より拡大し、さまざまな国際交流支援活動を通じて本学のグローバル化を総合的に活性化することをミッションとする国際交流センター（現国際化推進センター）を設置した。グローバル人材育成に向けての取り組みの一つとして、国際化推進センターでは、G-フィロス（グローバル共創学習室）の管理・運営⁴と、英語学習・留学アドバイザー⁵による学生の英語学習と海外留学のサポートを行ってきた。ここでは、新型コロナウイルス感染症の影響が拡大してさまざまな制約がある中、全ての取り組みをオンラインに切り替える一方で、感染症の影響が少なくなった際には対面で行った 2023 年度の G-フィロス（グローバル共創学習室）の取り組みと英語学習・留学サポートについて報告する。

2. G-フィロス（グローバル共創学習室）関連の活動

本学工学部では、共創学習支援室「フィロス⁶」が学科の壁を越えた学習交流を促進する特色のある取り組みを行っている。しかし、2014 年度前期まで本学には外国語や自国の文化をお互いに教えあったり共有したりする場（旧留学生センターアネックス、国際交流スペース等）はあっても、なかなか活用されなかった。そこで、国際交流スペース（本学甲府キャンパス B-1 号館 221、Y 号館 2 階）において、国際交流に高い意欲をもち、責任感のある留学生と日本語を母語とする学生を SA(Student Assistant 以下 SA)として配置し、さらに TOEIC・TOEFL 関連書籍、日本語学習教材、日英語の DVD を配架して日本人学生及び留学生の語学学習の支援を行うとともに、気軽に異文化交流ができる国際的な共創学習支援環境を提供することとした。表 1 に 2023 年度の G-フィロスの主な取り組み一覧を示す。

⁴平成 26 年度戦略・公募プロジェクト教育関連プロジェクト「グローバル人材育成プログラムの実施に向けた国際交流環境整備」（プロジェクト代表者：茅 暁陽）の支援を受けている。本プロジェクトでは、ほかに協定校への海外インターンシップ付き短期留学プログラムの企画と試験的实施、協定校からの学生交流団の受入れを行った。

⁵平成 26 年度・27 年度国立大学法人運営費交付金特別経費「『学長のリーダーシップの発揮』を更に高めるための特別措置枠」による。

⁶ <http://www.eng.yamanashi.ac.jp/risu/kyousou/index.html>

表 1 G-フィロス主な取り組み一覧（左端の番号は表 2 と同一）

	取り組み名	1 回あたり 開催時間	頻度/週	1 回あたりの配置人数	2023 年度実施状況
①	イングリッシュ・カフェ	40 分	5	アドバイザー1 +SA2～3、本学英語 教員(週 3 回)	対面で実施
②	イングリッシュ・サポート (2023 年度よりイングリッシュ・ カフェに改称)	60～90 分	10	アドバイザー1 +SA2～3	対面で実施
③	英語学習・留学個別相談	30 分	時 期 に よ る	アドバイザー1～2	オンライン/対面で実 施
④	TOEIC 対策等講座	70 分	2	アドバイザー1	オンラインで実施
⑤	全学共通科目「総合英語」履修 者対象講座	60 分	4	アドバイザー1	オンラインで実施
⑧	諸外国語カフェ	60～90 分	－	SA1～3	対面で実施
⑨	日本語学習サポート	60～90 分	10	SA2～3	対面で実施

3. 英語サポート SA・英語学習・留学アドバイザーの活動

英語学習・留学アドバイザーは、前掲の表 1 の①～⑤に関わっているが、ここでは利用者が多い①～④について説明する。利用者数については表 2 を参照のこと。

3.1 イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポート

上記①と②では、英語が話せる SA と英語学習アドバイザー、または本学英語教員が、楽しく話すことを目的としたイングリッシュ・カフェを毎日昼休みに開催した。また、夕方には、さまざまな英語のサポートを行った。2023 年度のイングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポート利用者数は、延べ 2,334 人であった。

3.2 英語学習・留学個別相談、プライベート英語レッスン

上記③の英語学習・留学個別相談、プライベート英語レッスンは、学生が自律的に英語学習ができるようになることを目的に、本学が 2019 年度から雇用した英語学習・留学アドバイザーが常時 2 名態勢で行った。1 回 30 分の枠で、英語学習や留学に関する目標設定や学習計画、動機付け、学習の継続のために必要なことなどについて個別に（1 対 1 で）アドバイスしたり、英語のレッスンをしたりしている。その相談/レッスン内容は、TOEIC®テストや TOEFL®テスト、IELTS などの各種試験対策から、スピーキングやライティングといった特定の英語スキルの向上について、留学に向けてなど多岐に渡っている。2023 年度の相談件数は、延べ 1,123 件であった。

3.3 TOEIC®等対策講座

上記④の TOEIC®対策講座は、前期/後期に 1 回 70 分で複数回行っている。学生が受講しやすいように種々の工夫をしたが、2023 年度の対策講座受講者は、延べ 448 人と増加に転じた。これ以外にもセミナーを設け（表 3 参照）、学生が興味を持ち、継続的に英語の学習ができる環境を整えた。

3.5 山梨県立大学学生へのサービス提供

2021 年 3 月に「一般社団法人 大学アライアンスやまなし」が、文部科学大臣より「大学等連携推進法人」の認定を受けたことに伴い、大学間（山梨大学・山梨県立大学）で、連携開設科目の開設や、共同教育課程を設ける場合の各大学の最低修得単位数の引き下げを内容とする教学上の特例が認められた。これを受けて、2021 年度から山梨県立大学の学生にも、G-フィロスのサービスの一部を提供し、2023 年度も引き続き提供した⁷。利用者

⁷ 山梨県立大学の学生にとっての G-フィロスのサービスは、単位修得には直接関与しない。

数は少なかったものの、本学の学生もよい刺激を受けたようである。

表2 G-フィロス各種サービスの利用者数推移

	取り組み名	延べ利用者							
		2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
①	イングリッシュ・カフェ	2,317	2,490	2,884	3,906	2,383	1,948	1,939	2,334
②	イングリッシュ・サポート								
③	英語学習・留学個別相談	1,625	1,104	1,382	1,111	1,250	1,385	1,561	1,123
④	TOEIC 対策等講座	621	881	664	444	467	473	337	448
⑤	全学共通科目「総合英語」履修者対象講座	635	432	486	647	394	530	336	354
⑥	教職員向けイングリッシュ・セッション	239	80	27	10	N/A	N/A	N/A	N/A
⑦	医学部Cにおける英語学習サポート	156	223	196	111	N/A	N/A	N/A	N/A
⑧	諸外国語カフェ	242	215	167	179	N/A	49	248	106
⑨	日本語学習サポート	593	640	522	639	84	220	410	415
⑩	英語自律学習ポイントカード	481	591	604	703	426	417	602	1,110
⑪	オンライン自習室	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	4,339	N/A	N/A

4. G-フィロス関連イベント

G-フィロスでは硬軟織り交ぜて各種のイベントを行っている。表3に2023年度に行ったイベントとその参加人数を示す。イベントの主なテーマはTOEIC®、異文化交流、留学の3つである。いずれのイベントも大変好評であり、イベントをきっかけにG-フィロスを利用し始める学生もかなり存在している。また、一部は外部にも開放した。さらに2023年度は前年度に引き続き、本学に入学予定の高校生を対象にしたTOEICセミナーを行い、入学前から英語学習に取り組むことの重要性を伝えた。参加した高校生にとっては、本学の英語学習サポートの手厚さを知ってもらった好機となったようである。

表3 2023年度G-フィロス関連イベント

日付	時間	場所	イベント名	人数	内訳 (梨大生)	内訳 (外部)
4月7日	16:50-18:20	A2-21	G-フィロス&英語学習サポート説明会	250	250	
4月10日	15:00-16:00	A2-21	G-フィロス&英語学習サポート説明会	133	133	
4月11日	12:00-13:00	A2-21	G-フィロス&英語学習サポート説明会	108	108	
4月19日	17:00-18:30	A2-21	スタートダッシュTOEIC®L&Rセミナー	159	159	
6月16日	17:00-18:00	工芸会館3階会議室	外国語カフェ(ウクライナ)	46	41	5
7月14日	17:00-18:00	LC-12	外国語カフェ(中国)	18	16	2
7月21日	17:30-18:30	B1-221	英語でTea Party	30	30	
8月2日	16:00-17:00	B1-221	英語音読道場	12	12	
8月3日	16:00-17:00	B1-221	英語音読道場	11	11	
8月4日	16:00-17:00	B1-221	Learning Thai Phrases in English	5	4	1
8月2日~10日	11:00-12:00	B1-221	English Café with英語学習アドバイザー	6	6	
8月2日	17:00-18:00	B1-221	Summer English Cafe(スムーズな英語の挨拶)	13	13	
8月3日	17:00-18:00	B1-221	Summer English Cafe(コミュニケーションTips)	7	7	
8月4日	17:00-18:00	B1-221	Summer English Cafe(英語発音Tips)	5	5	
8月7日	17:00-18:00	B1-221	Summer English Cafe(モチベーションアップ座談会)	3	3	
8月8日	17:00-18:00	B1-221	Summer English Cafe(カフェで役立つ英会話)	7	7	
8月9日	17:00-18:00	B1-221	Summer English Cafe(トラベル英会話)	4	4	
8月10日	17:00-18:00	B1-221	Summer English Cafe(英語でゲーム)	6	6	
8月21日	11:00-12:00	B1-221	TOEIC®ボキャブラリーチャレンジ(計5回実施)	19	19	
9月25日~29日	11:00-12:00	オンライン	English Café with英語学習アドバイザー	8	8	
9月25日~29日	17:00-18:00	B1-221	English Café with英語学習アドバイザー	30	30	
11月22日	17:00-18:30	B1-221	外国語カフェ(マレーシア)	55	51	4
12月19日	17:00-18:30	工芸会館3階会議室	Holiday Party	78	77	1
1月22日~31日	16:30-19:00	B1-221	English Study Lounge	32	32	
2月6日	15:00-16:00	オンライン	高校生TOEICセミナー(CS,応化)	47	47	
2月7日	15:00-16:00	オンライン	高校生TOEICセミナー(CS,応化)	47	47	
合計				1,139	1,126	13

5. 「英語自律学習ポイントカード」の配布と TOEIC/TOEFL 無料受験資格付与

英語を自律的に学習できるようにするため、積極的に上記英語関連サポートや講座に参加した学生に特典として TOEIC® IP L&R/S&W、または TOEFL ITP®の受験料のうち 3,000 円をキャッシュ・バックするという取り組みを行っている。それを管理するために「英語自律学習ポイントカード」を作成し、希望者に配布した。

表 2 の⑩に示すように、2019 年度まで「英語自律学習ポイントカード」発行枚数は徐々に増え続け、2019 年度には 703 枚に達した。しかしながら、コロナ禍においては発行枚数が大幅に減少していた。2023 年度は種々の取り組みを行ったため、コロナ禍前の水準以上に戻ってきた。

6. まとめ

グローバル人材の育成に向けて、国際化推進センターでは、外国語力、海外体験、異文化と関わる主体性と積極性、自律的語学学習について 2014 年度より継続的に取り組んできた。この中で本学が 2019 年度から雇用した英語学習・留学アドバイザーの活動は、特に本学学生の英語学習の支えとなり、それが TOEIC 等のスコアの伸びや、海外留学者数の増加に大きく貢献してきた。G-フィロス利用者数は順調に伸びてきたものの、コロナ禍では種々の取り組みを大幅に縮小せざるを得なかったため、利用者も大幅に減少した。2023 年度は利用者数がコロナ禍前の水準に戻りつつあるものの、完全に学生が戻ってきたわけではない。2023 年度以降も学生のニーズの変化に対応して取り組みの改善をし、留学生 SA、日本語 SA、英語学習・留学アドバイザー、英語教員と共に G-フィロスの活性化を図る必要がある。

V. 地域貢献

国際化推進センターは、キャンパス内だけではなく、地域全体のグローバル化にも貢献したいと考えています。地元教育機関や自治体など、さまざまな団体のイベントや国際交流事業に留学生を派遣することは、地域貢献だけではなく、留学生に異文化交流の機会を与えることにもつながっています。

留学生の地域との交流

留学生にとって地域との交流は、自らの暮らす地域をよく知り親しむことで安心して暮らすことができるだけでなく、卒業後も山梨に留まり定住するという選択肢を広げるきっかけともなります。新型コロナウイルス感染症の影響により、例年開催されている地域住民の方々と本学留学生との交流を目的とした「こども と おとな と りゅうがくせい の まつり（こおりゅうまつり）」や、食を通して異文化への理解を深めることを目的とした「餅つき大会」は行われませんでしたが、実施されたイベントを報告します。

1. 信玄公祭り甲州軍団出陣「三条夫人隊」への参加

2023年10月28日（土）に信玄公祭りが開催され、本学の留学生が三条夫人隊として甲州軍団出陣に参加しました。参加した留学生たちは、三条夫人隊を模した衣装に身を包み、多くの人が訪れた甲府の街を練り歩くなど、とても貴重な経験をすることができました。

留学生からは、「盛大でとても賑やかなイベントに参加することができて光栄だった」「日本の伝統的な衣装のすばらしさに驚いた」などの声が聞かれました。

留学生にとって、地域のイベントに参加するということとても貴重な経験になりました。



2. 留学生が山梨県主催植樹イベント：国際交流「世界の森やまなし」キックオフイベントに参加

2023年10月19日に開催された国際交流「世界の森やまなし」に留学生が参加しました。このイベントは、山梨県が諸外国との友好促進とSDGsの実現に向け、記念植樹等交流活動の場として、国際交流「世界の森やまなし」を富士山の麓に創出することを目的としたキックオフイベントです。

このイベントは、本学の留学生だけでなく各国の駐日大使をはじめ、多くの国の方々が招待されました。参加した留学生にとって、より幅広く国際交流を体験できる機会となりました。



3. 留学生が甲府市「甲府大好きまつり」に参加

2023 年 11 月 4 日に開催された甲府大好きまつりで山梨の郷土食ほうとうをテーマ出展するブースに本学の留学生が参加しました。出展ブースでは、今回参加した留学生の母国であるマレーシアのチリパンミーとタイのカオパオを組み合わせたほうとうマーチャップを台湾風のおでんと一緒にふるまいました。

このイベントでは、地域の方や他大学の留学生との交流を。また、多くの方々との交流で日本語もたくさん学ぶことができ楽しいイベントとなりました。



小・中・高等学校への留学生派遣

山梨県内の小・中・高等学校より留学生の派遣依頼があった際、参加を希望する留学生を募集し派遣しています。派遣の要望は主に、国際交流・異文化交流のための授業や行事であることが多く、地域の教育機関の国際交流活動に貢献すると同時に、留学生の異文化体験や日本の教育機関見学の機会にもなっています。2023 年度は甲府第一高等学校で高校生と一緒に実施する英語ワークショップに参加しました。



VI. 国際交流関連データ

留学生在籍状況をはじめ、国際交流に関連する各種データをまとめて報告いたします。

国際化推進センターとグローバル推進課の行事(2023年度)

年	月	日	活 動 内 容
2023	通年		英語学習アドバイザーによるプライベート英語レッスン、英語学習相談
	4	3	A3I 中長期留学説明会
		4	前期 留学生ガイダンス、日本語プレイスメントテスト
		7	G-フィロス&英語学習サポート説明会
		10	G-フィロス&英語学習サポート説明会
		11	G-フィロス&英語学習サポート説明会
		13～5/2	前期イングリッシュ・カフェ (18:10-19:00)
		19	スタートダッシュ TOEIC®L&R セミナー
		22	学内 TOEIC® L&R IP テスト実施
	5	8～7/21	前期イングリッシュカフェ (12:20-13:00/16:30-19:00)
		8～7/13	前期総合英語時間外学習 (オンライン)
		12	山梨留学生就職促進プログラム (IRCS) ガイダンス
		13	学内 TOEFL ITP®テスト実施
		15～7/12	前期 TOEIC 講座
		16	国際交流会館オリエンテーション
		16	夏季海外研修説明会
		16	リュブリャナ大学との交流授業
		19	国際交流会館 ANNEX オリエンテーション
		19	夏季海外研修説明会
		26	夏季海外研修説明会
	6	5～7/31	海外研修・交換留学事前授業 Gateway
		6～7/18	集中講義「グローバルヘルスの課題解決に挑戦！フィールドワーク計画を立てよう」(夏季海外研修・カンボジアプログラム事前準備授業) (15 コマ)
		6	世界展開力強化事業 第6回 A3I 運営委員会
		14	学長とウクライナの留学生との懇親会
		15	キャリアデザイン演習Ⅰ (IRCS)
		16	外国語カフェ (ウクライナ)
		20	甲府警察署による防犯講話
		21	日本語ビジネスマナー講座Ⅰ (IRCS)
		24	JASSO 外国人学生のための進学説明会 (東京)
		30	キャリアデザイン演習Ⅱ (IRCS)
	7	3	留学生交流パートナー説明会
		3	ブリジストン森脇様による講義
		5	ビジネスマナー講座Ⅱ (IRCS)
		8	学内 TOEIC® L&R IP テスト実施

		10	留学生交流パートナー交流会
		13	BJT ビジネス日本語対策講座Ⅰ (IRCS)
		14	キャリアデザイン演習Ⅲ (IRCS)
		14	外国語カフェ (中国)
		20	BJT ビジネス日本語対策講座Ⅱ (IRCS)
		21	英語で Tea Party
	8	2	日本語日本文化研修生 成果発表会
		2	SummerEnglishCafe(スムーズな英語の挨拶)
		2～3	英語音読道場(16:00-17:00)
		2～10	English Café with 英語学習アドバイザー (11:00-12:00)
		3	SummerEnglishCafe(コミュニケーション Tips)
		4	SummerEnglishCafe(英語発音 Tips)
		4	Learning Thai Phrases in English
		6～18	夏季海外研修 (A3I 短期研修) 中国・杭州電子科技大学
		6～18	A3I サマースクール 中国・杭州電子科技大学
		7	SummerEnglishCafe(モチベーションアップ座談会)
		7～17	夏季海外研修 (A3I 短期研修) 韓国・釜慶大学校
		8	SummerEnglishCafe(カフェで役立つ英会話)
		8	夏季短期海外研修・カンボジアプログラム派遣開始 (全員帰国・終了 9 月 1 日)
		9	SummerEnglishCafe(トラベル英会話)
		10	SummerEnglishCafe(英語でゲーム)
		13～9/17	夏季海外研修 米国・ノーザン・アイオワ大学
		17	インターンシップマナー講座 (IRCS)
		17～31	A3I ショートプログラム 日本文化体験
		21	TOEIC®ボキャブラリーチャレンジ (計 5 回実施)
	9	1～12/24	韓国・釜慶大学校へ 2 名の DD 参加学生派遣開始
		5～1/25	中国・杭州電子科技大学へ 2 名の DD 参加学生派遣開始
		8	ユニタス日本語学校進学説明会
		12～13	留学生実地見学旅行
		15	後期 留学生ガイダンス、日本語プレイスメントテスト
		20	留学生チューター、サポーター説明会 1
		22	留学生チューター、サポーター説明会 2
		22	世界展開力強化事業 第 7 回 A3I 運営委員会
		25	職場文化体験授業 事後報告会
		25～29	English Café with 英語学習アドバイザー (11:00-12:00) (オンライン)
		25～29	English Café with 英語学習アドバイザー (17:00-18:00)

	10	2～11/2	後期イングリッシュカフェ (18 : 10-19:00)開始
		12～ 12/21	後期総合英語時間外学習開始 (オンライン)
		12	国際交流会館オリエンテーション、ANNEX オリエンテーション
		16～ 11/21	後期 TOEIC 講座開始
		19	国際交流「世界の森やまなし」キックオフイベント (山梨県主催)
		23	留学生交流パートナー交流会
		28	学内 TOEIC® L&R IP テスト実施
		28	信玄公祭り参加
	11	1	春季海外研修説明会
		3	留学生の華道体験
		4	甲府市主催：甲府大好きまつり参加
		6～1/19	後期イングリッシュカフェ (12 : 20-13 : 00/16 : 30-19 : 00)
		7	春季海外研修説明会
		9	留学生交流パートナー交流会
		9	春季海外研修説明会
		—	海外研修・交換留学事前授業 Gateway II
		11～16	学内 TOEIC® S&W IP テスト実施
		15	世界展開力強化事業 中間評価
		21～2/16	集中講義「グローバルヘルスの課題解決に挑戦！フィールドワーク計画を立てよう」(春季短期海外研修・カンボジアプログラム事前準備授業) (15 コマ)
		22	外国語カフェ (マレーシア)
		23～27	JASSO 日本留学フェア (ベトナム)
	12	1	業界・企業研究ガイダンス (IRCS)
		2	留学生交流パートナーバス旅行
		8	自己理解・E.S ワークショップ (IRCS)
		13	山梨県主催 留学生のための就職ガイダンス (IRCS)
		14	令和 5 年度学長主催山梨大学外国人留学生懇談会
		16	学内 TOEIC® L&R IP テスト実施
		18～3/3	マレーシア・ペルリス大学へ 1 名の交換留学学生派遣開始
		19	HolidayParty
		21	日越大学「Career Design Week」オンライン説明会 (ベトナム)
		22	業界・企業研究ワークショップ (IRCS)
	1	15～24	日本文化体験プログラム
		14～18	杭州電子科技大学へ山梨大学教員を派遣
		16	SPI 対策講座 I (IRCS)

		17	SPI 対策講座Ⅱ（IRCS）
		18	企業文化セミナーⅠ（IRCS）
		22～31	English Study Lounge 開始
		22	ビジネスマナー講座Ⅲ（IRCS）
		24	企業文化セミナーⅡ（IRCS）
	2	1	ビジネスマナー講座Ⅳ（IRCS）
		3	学内 TOEIC® L&R IP テスト実施
		4～	春季海外研修 米国・ケンタッキー大学
		6	高校生 TOEIC セミナー（オンライン）
		7	高校生 TOEIC セミナー（オンライン）
		13	カンボジア・国際大学（IU）大学生との派遣前交流会（集中講義内での実施、春季短期海外研修・カンボジアプログラム事前準備の一環）
		17～29	春季海外研修（A3I 短期研修） マレーシア・ペルリス大学
		20	企業見学会 1（IRCS）
		23	世界展開力強化事業 学生企業訪問
		24	春季海外研修・カンボジアプログラム派遣開始（全員帰国・終了 3 月 28 日）
		25～3/24	春季海外研修 カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学 English Language Institute
		26	企業見学会 2（IRCS）
		28	企業見学会 3（IRCS）
	3	1	企業見学会 4（IRCS）
		3	甲府市主催：国際デイキャンプ～甲府市高校生との国際交流～参加

2023 年度留学生在籍状況(国別) 基準日：5 月 1 日

No.	国	大学院		学部		研究生	科目等履修生	特別聴講学生		計			合計
		国費	私費	私費	政府派遣	私費	国費	国費	私費	国費	政府派遣	私費	
1	中華人民共和国	0	80	35	0	10	0	1	4	1	0	129	130
2	マレーシア	1	12	5	11	0	0	0	0	1	11	17	29
3	ベトナム社会主義共和国	1	7	6	0	0	0	0	0	1	0	13	14
4	バングラデシュ人民共和国	5	4	0	0	0	0	0	0	5	0	4	9
5	ウクライナ共和国	0	0	0	0	0	1	6	0	7	0	0	7
6	大韓民国	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	5	5
7	モンゴル	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	5	5
8	インドネシア共和国	4	1	0	0	0	0	0	0	4	0	1	5
9	スリランカ民主社会主義共和国	2	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	4
10	ガーナ共和国	2	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	4
11	台湾	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	3
12	インド	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
13	タイ王国	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
14	英国	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2
15	ネパール連邦民主共和国	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
16	ソロモン諸島	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
17	ドイツ連邦共和国	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
18	フランス共和国	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
19	ルーマニア	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
20	ポーランド共和国	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
21	ブラジル連邦共和国	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
22	エチオピア連邦民主共和国	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
23	ケニア共和国	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
24	ザンビア共和国	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
25	パナマ共和国	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
26	ブルキナファソ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
27	マダガスカル共和国	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
28	南スーダン共和国	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計		17	125	52	11	13	1	7	9	25	11	199	235

受入留学生の推移(過去 4 年間) 基準日：5 月 1 日

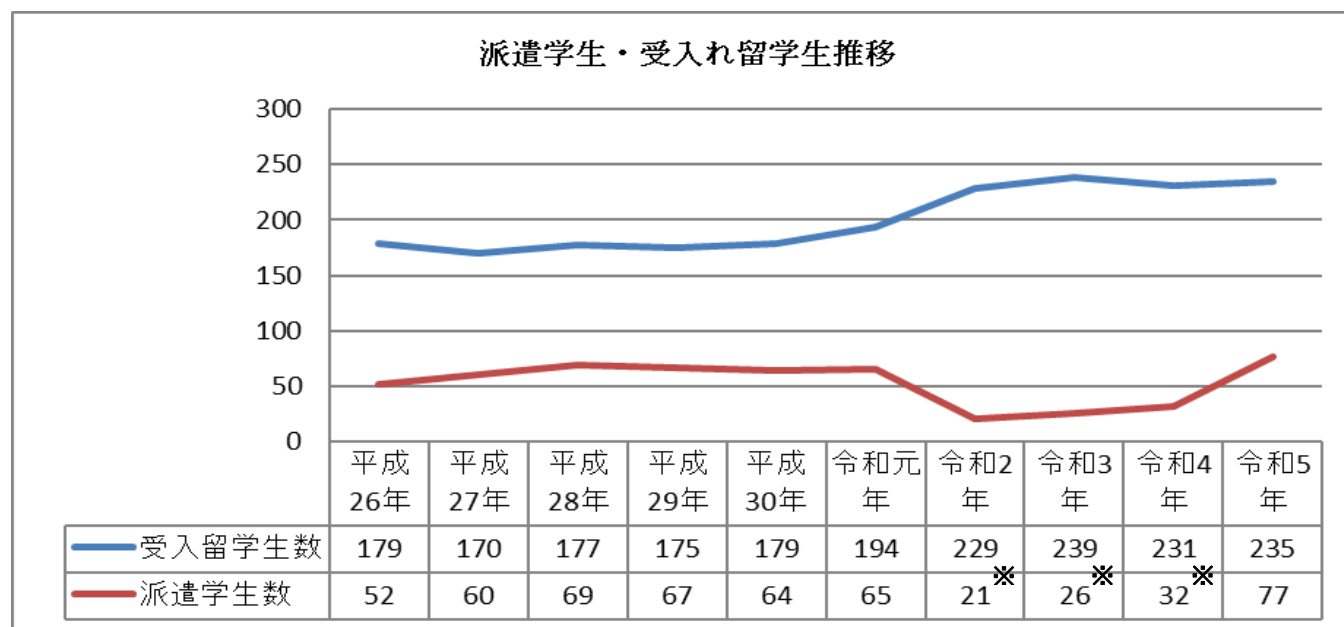
	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
国費留学生 政府派遣留学生 私費留学生 合計	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
	0	17	0	16	0	19	8	17
	12	0	11	0	12	0	11	0
	76	124	90	122	77	123	74	125
	229		239		231		235	

派遣留学生の推移(過去4年間)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
交換留学	0	0	6	2
A3I 中長期留学		0	4	5
夏季・春季海外研修 (海外インターンシップ参加者)	21 (オンライン)	26(オンライン)	22 (うちオンライン15名)	71
合計	21 (オンライン)	26(オンライン)	32	77

※令和2年度、3年度、4年度夏季は新型コロナウイルス感染症の影響のため海外派遣実施不可。オンラインにて研修を実施。

<図:派遣学生・受け入れ留学生推移>



※新型コロナウイルス感染症の影響のため海外派遣実施不可。オンラインにて研修を実施。

奨学金受給者数(私費外国人留学生)

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
学習奨励費	5	12	0	10	0	9	6	1
学習奨励費（就職支援特別枠）	8	11	11	10	15	24	2	12
学習奨励費（コロナ支援）	6	17	6	8	0	0	0	0
（財）ロータリー米山記念奨学会	1	1	2	0	2	0	3	0
朝鮮奨学会	1	1	1	1	1	0	1	0
（財）共立国際奨学財団	0		0	0	0	0	0	0
日揮・実吉奨学会	1		0	1	1	0	0	1
山梨大学大学院博士課程私費外国人留学生支援金		10	0	15	0	11	0	10
甲府市ふるさと応援補助金による大学院博士課程私費外国人留学生支援金		8	0	0	0	0	0	0
高度外国人材育成課程履修支援制度							4	10

新規協定締結校(2023年度)

	国名・地域名 Country/Region	大学等名 Institution	締結年月日 Agreement date
大学間	中国	蘇州大学	2024. 1. 4
	中国	西安医学院	2024. 1. 25
部局間	タイ	ラジャマンガラ工科大学	2023. 5. 16
	カンボジア	カンボジア工科大学	2023. 5. 31
		国際大学	2023. 5. 31
	中国	蘇州大学	2024. 1. 4

JSPS 国際交流事業申請状況

	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
外国人特別研究員(一般)	12	0	9	0	10	2	5	1
外国人特別研究員 (欧米短期)			1	1				
外国人招へい研究者 (長期)					1	1		
外国人招へい研究者 (短期)					2		2	0
研究拠点形成事業 A					1			
国際共同研究事業					1			
二国間交流事業	3	0	2	0	1		4	0
論文博士号取得希望者支援								

JSPS 研究者養成事業申請状況

	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
海外特別研究員	1	0			1	0		
海外特別研究員(R R A)								
若手研究者海外挑戦	1	0						
日本学術振興会賞								
日本学術振興会育志賞					1	0		

その他国際交流事業申請状況

	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
さくらサイエンス	0	0	0	0	1	1	4	3
JASSO (短期派遣)	1	1	1	1	3	3	4	4
JASSO (短期受入)	3	1	2	2	5	4	4	3
JASSO (双方向)	1	1	0	0	0	0	0	0